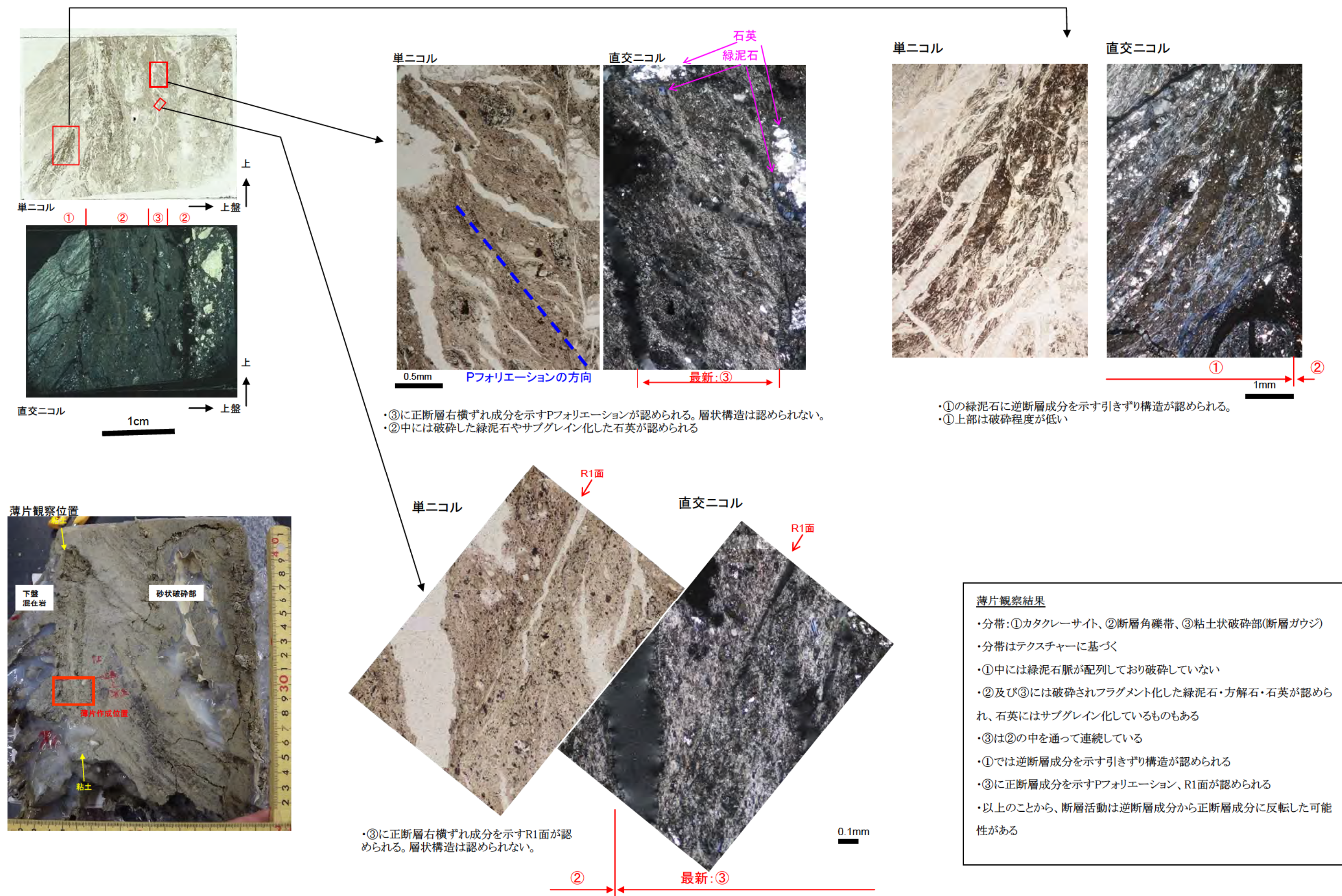


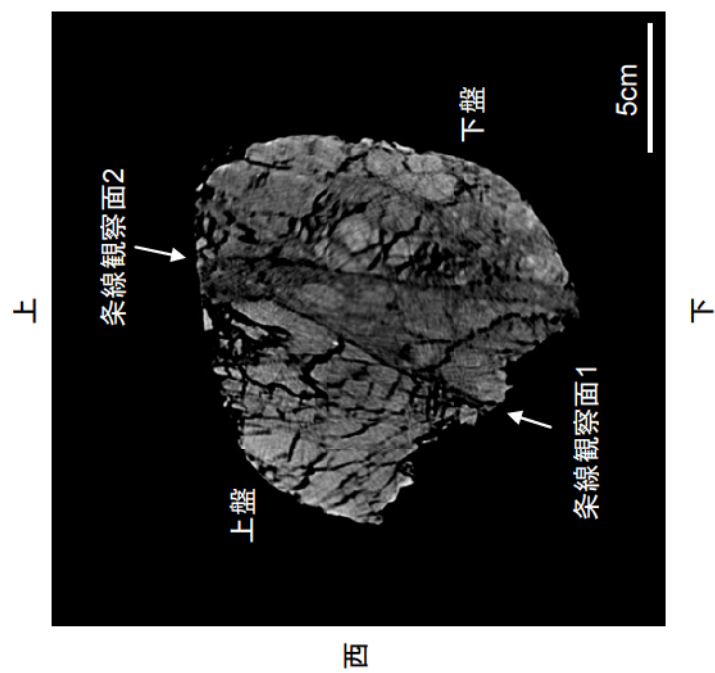


第 1.3.190 図 三方断層 新道北方の破砕部 ブロック試料の薄片観察結果 (Loc. M-3)

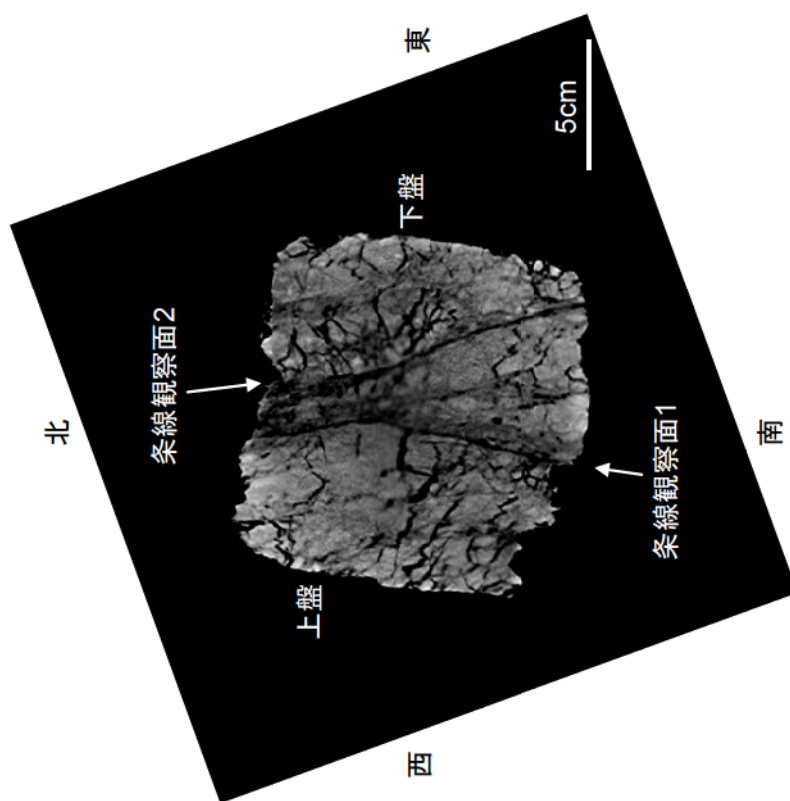


幅約2.5mの固結した角礫状破砕部中に網目状に分布する粘土脈が認められ、露頭内で粘土脈端部が確認できるものが多い。
 認められた粘土脈のうち、最も明瞭・直線的な粘土脈部分でブロックをサンプリングし、CT・条線観察を実施した。

第 1.3.191 図 三方断層 新道北東方の露頭写真 (Loc. M-4)



正面図



水平図

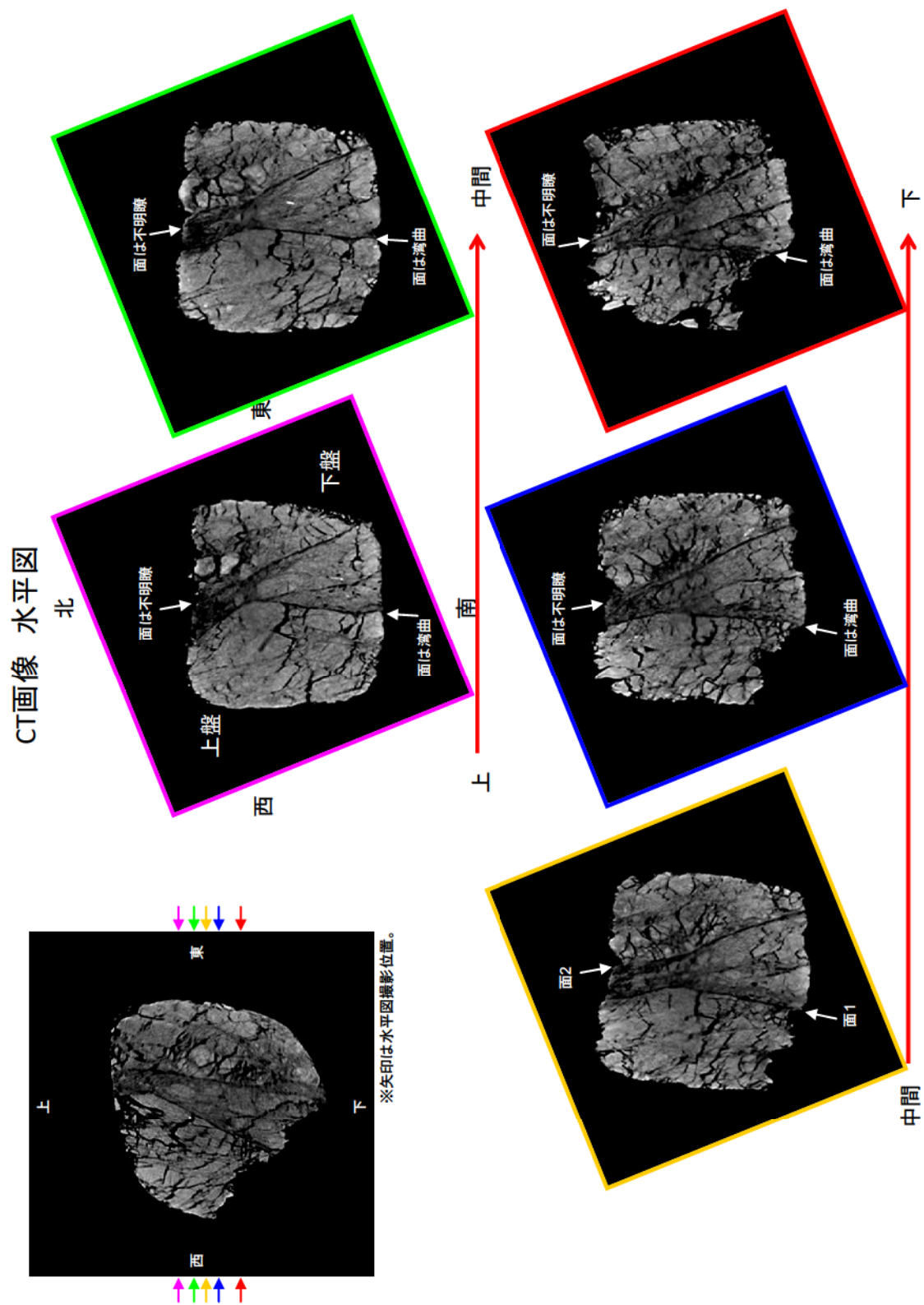
面構造の走向傾斜: TN20W/70W

縦ずれ成分: 不明、横ずれ成分: 不明

ブロック中には2条の湾曲した面が認められる。

この2条の面に挟まれた部分はやや密度が低下する。

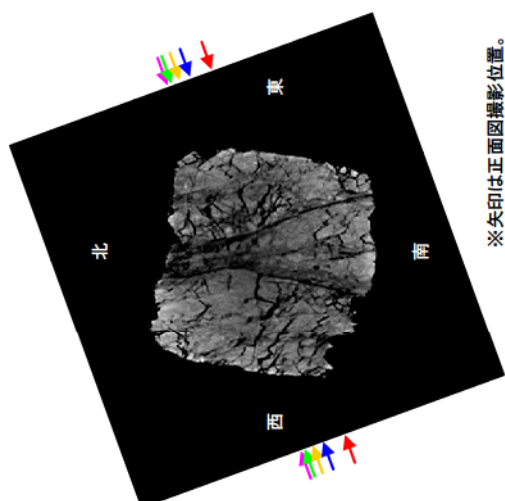
密度低下部中の構造はランダムである。



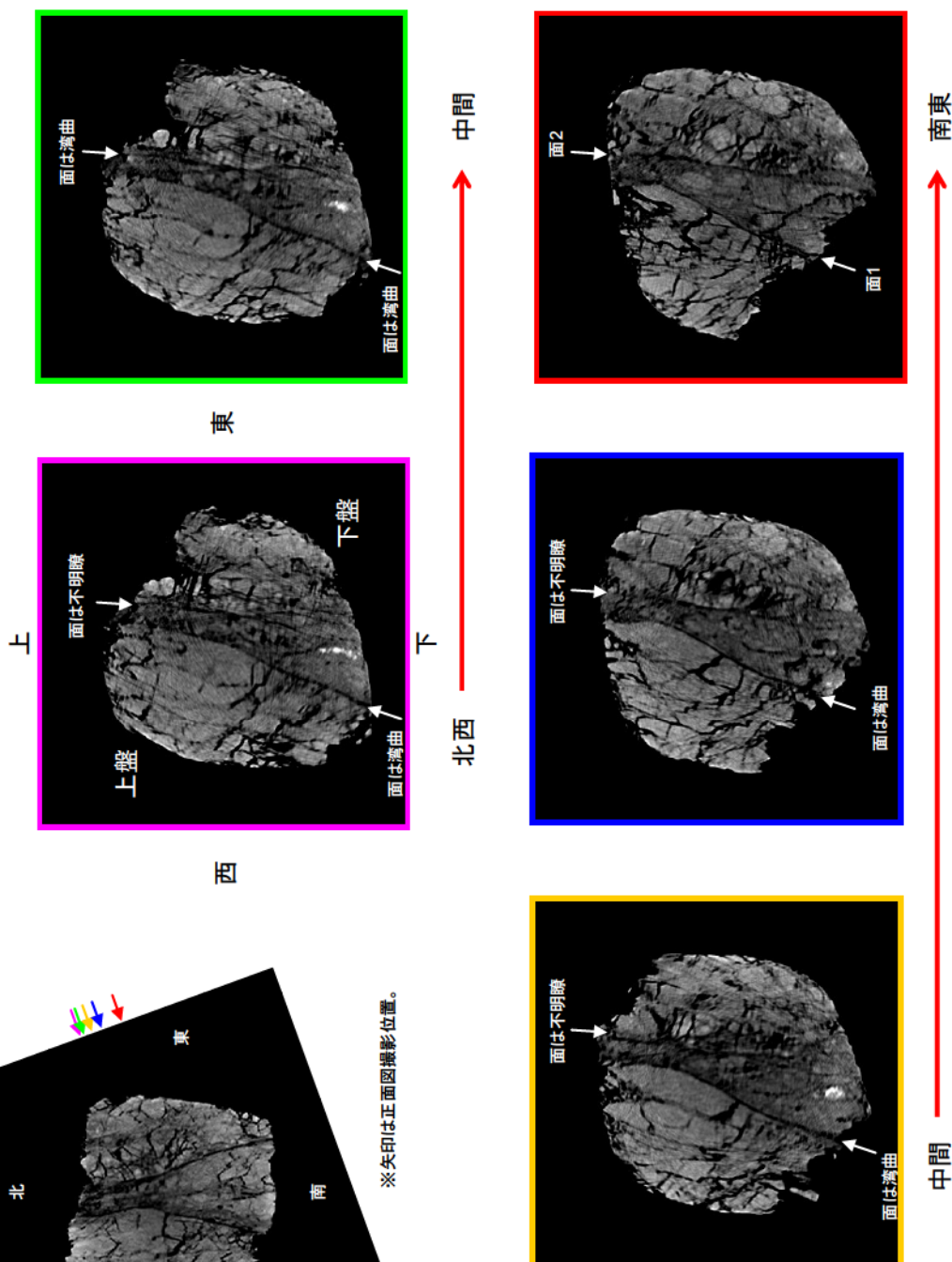
※矢印は水平図撮影位置。

- 複合面構造は認められない。面のような構造はあるが、面1は上の断面では大きく湾曲し、直線性に乏しい。
- 面2は下の断面では不明瞭で連続性に乏しい。
- 三次元的に他の構造に切られず、直線性・連続性が相対的に富む断層面は認められない。

CT画像 正面図



※矢印は正面図撮影位置。



- 複合面構造は認められない。面のような構造はあるが、面1は北西の断面では大きく湾曲し、直線性に乏しくなる。
- 面2は北西の断面では不明瞭で連続性に乏しくなる。
- 三次元的に他の構造に切られず、直線性・連続性が相対的に富む断面面は認められない。

条線観察面1



下盤上面



面の状況

条線は認められない。

第 1. 3. 193 図(1) 三方断層 新道北東方の破碎部 ブロック試料の
条線観察結果 (Loc. M-4) (1)

条線観察面2



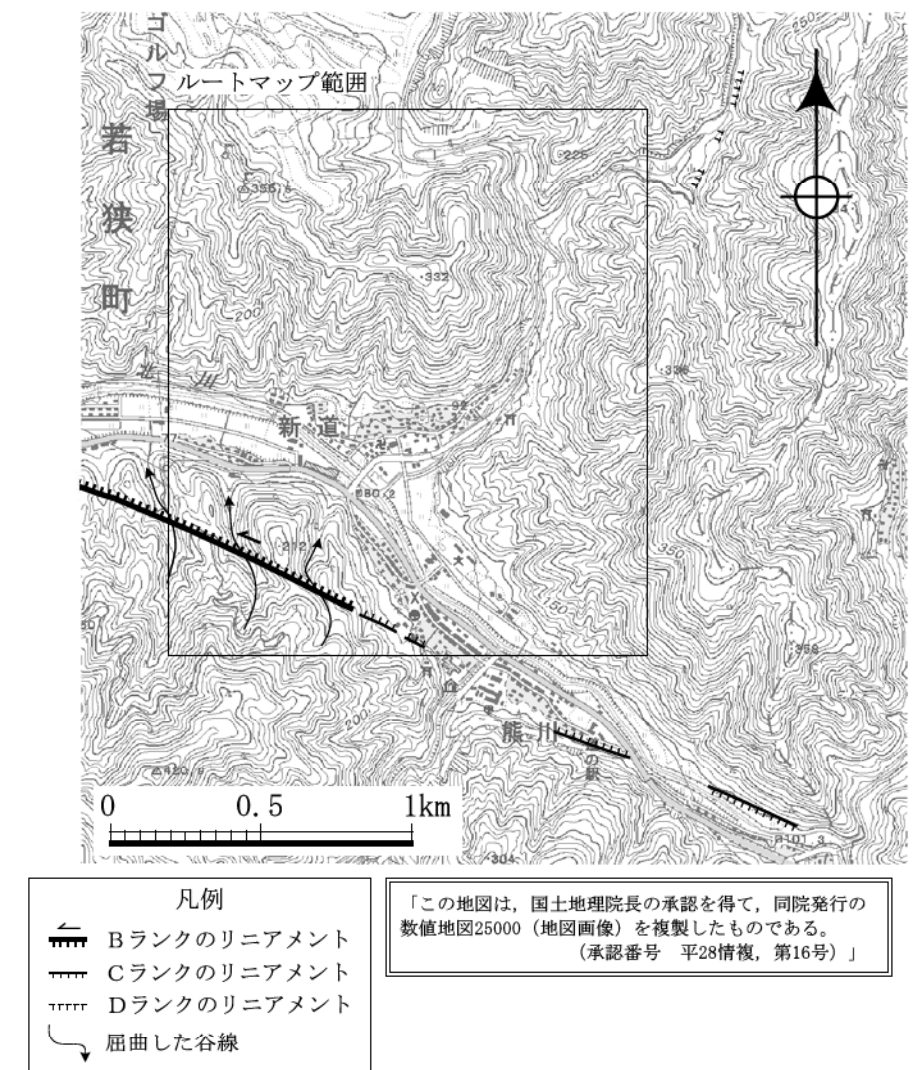
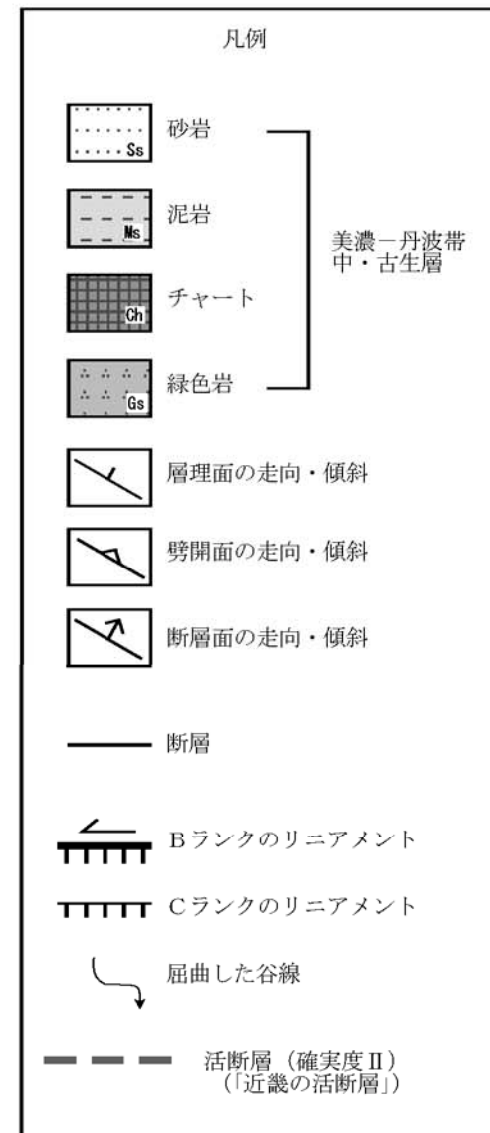
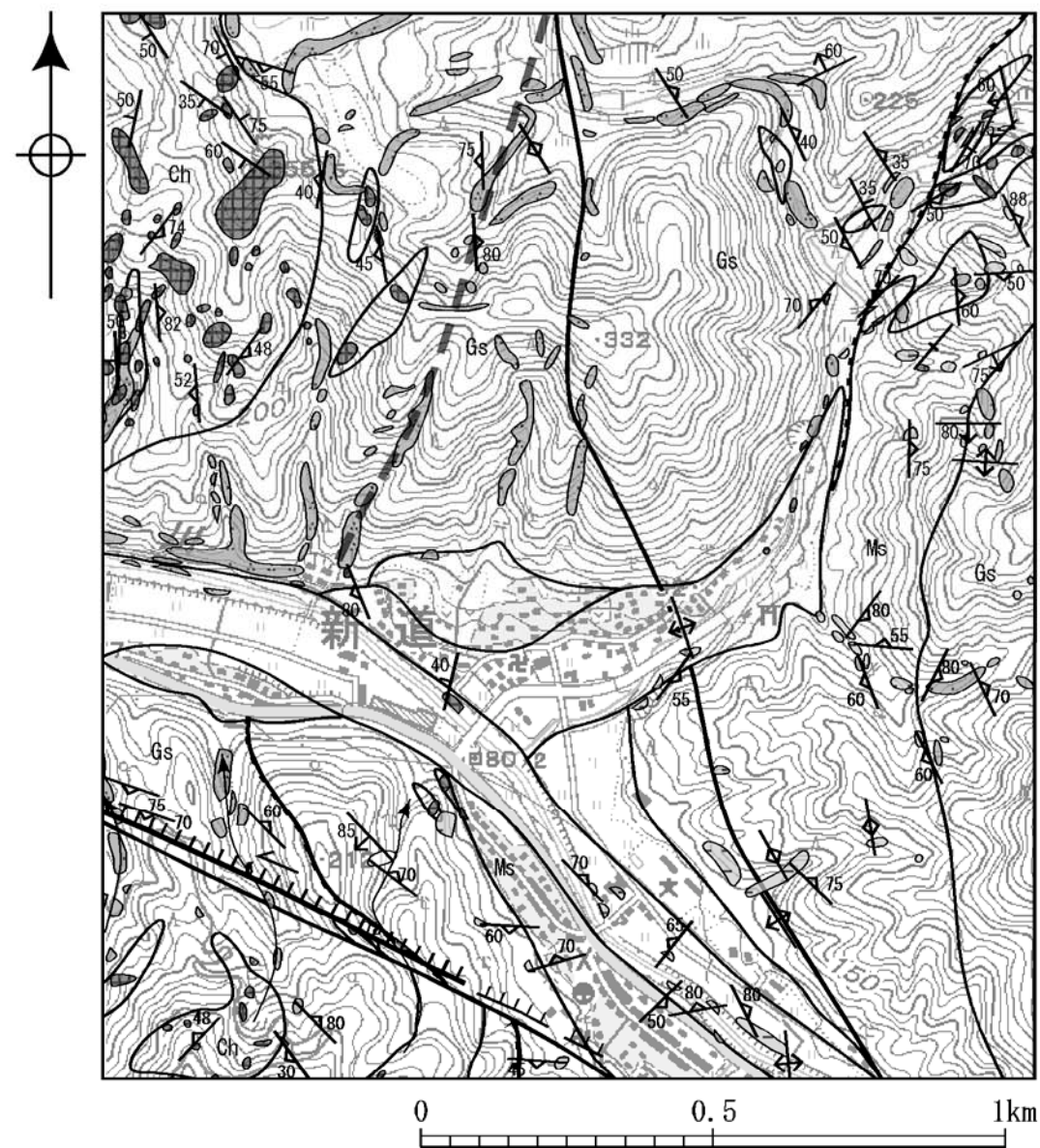
下盤上面



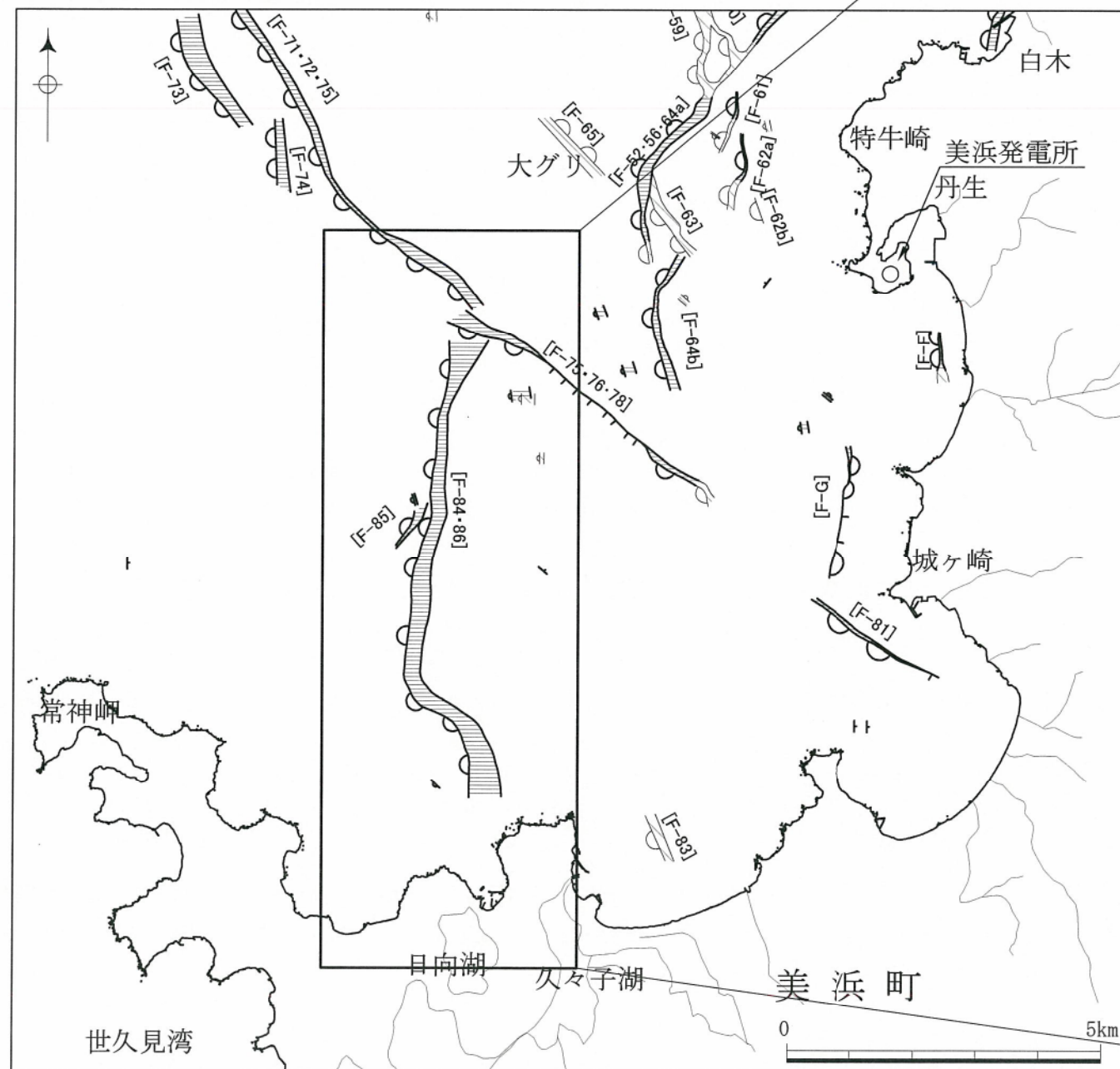
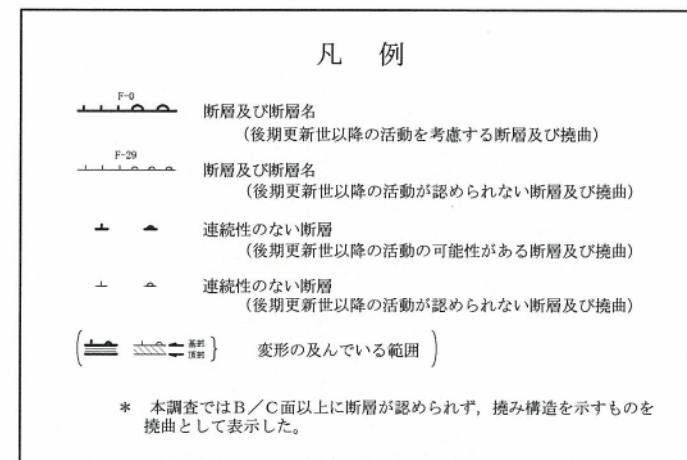
面の状況

条線は認められない。

第 1. 3. 193 図(2) 三方断層 新道北東方の破碎部 ブロック試料の
条線観察結果 (Loc. M-4) (2)



第1.3.194図 三方断層 新道付近の詳細ルートマップ (Loc. Mt-1)



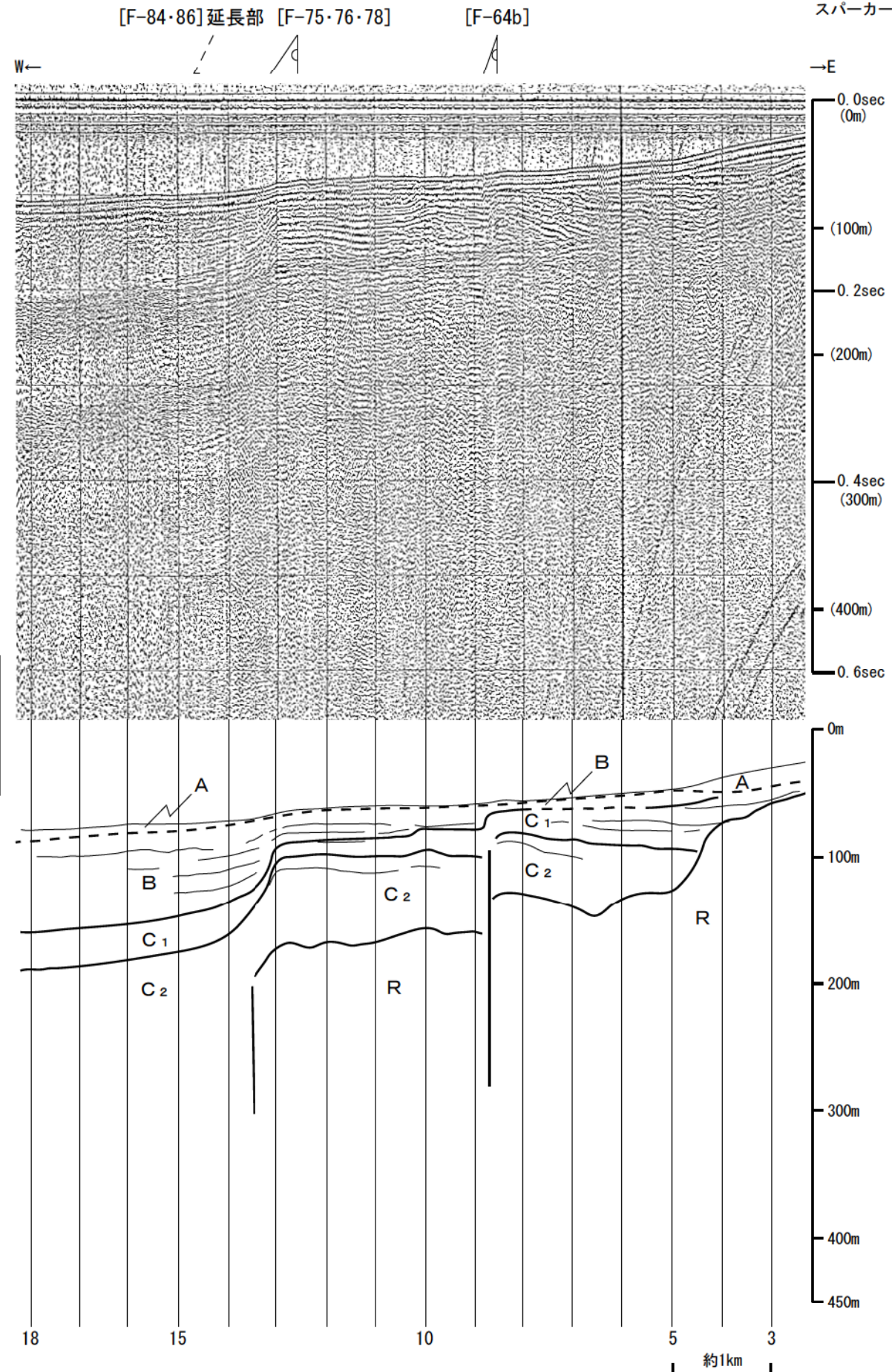
高さ強調:15倍
光源:真東, 仰角40°



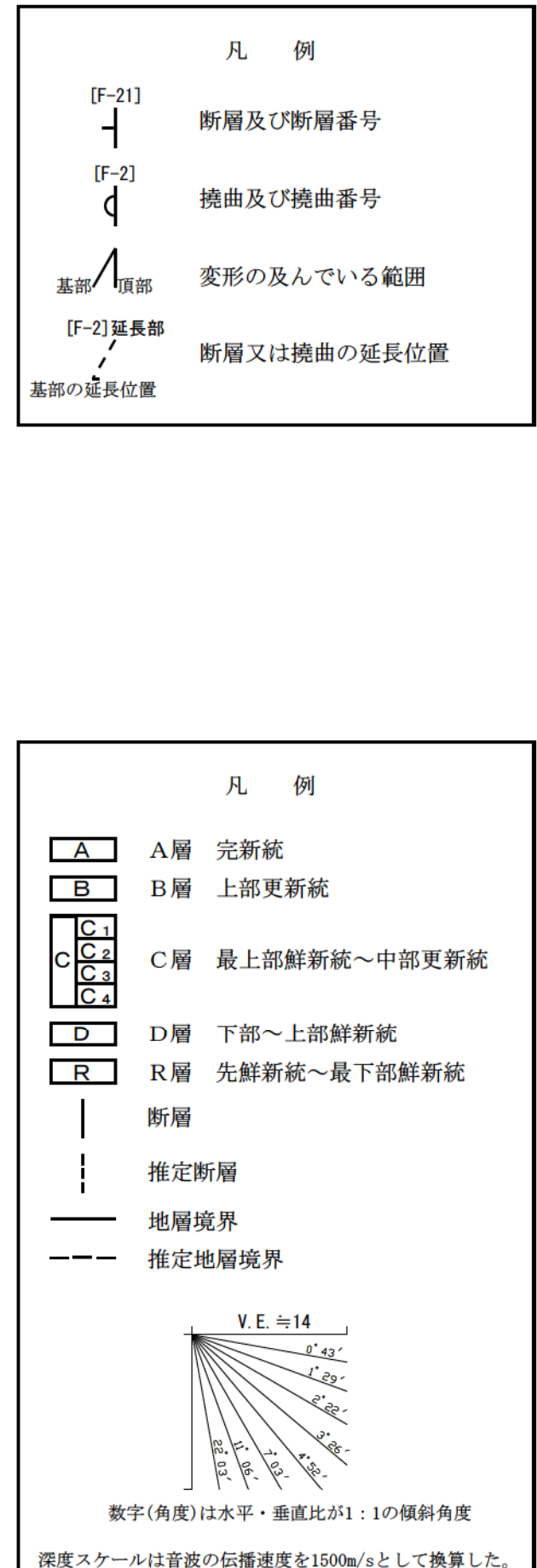
第1.3.195図 三方断層（海域）周辺の海底地形調査結果

No. 40-2

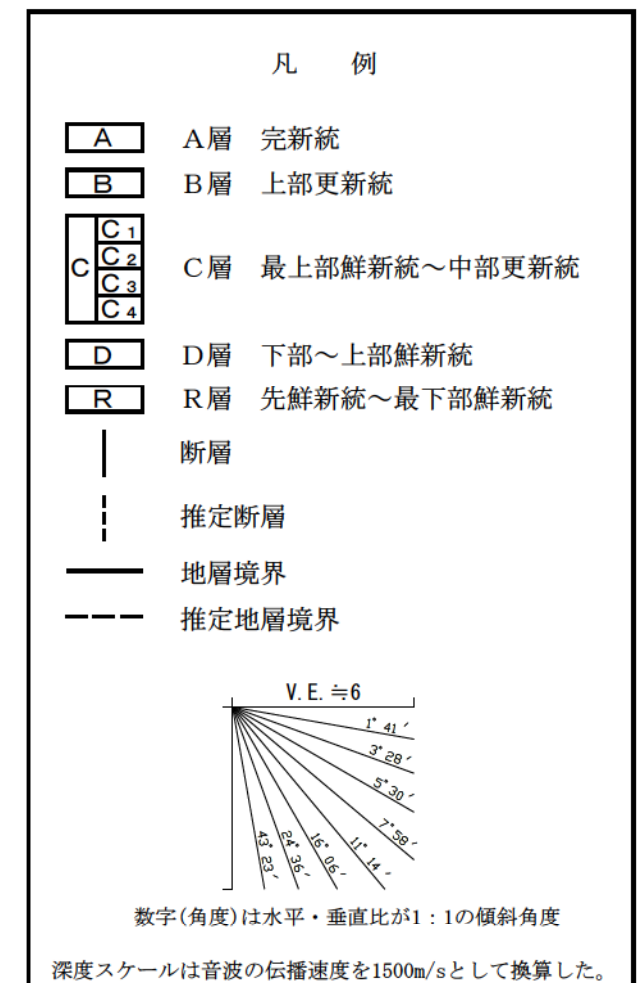
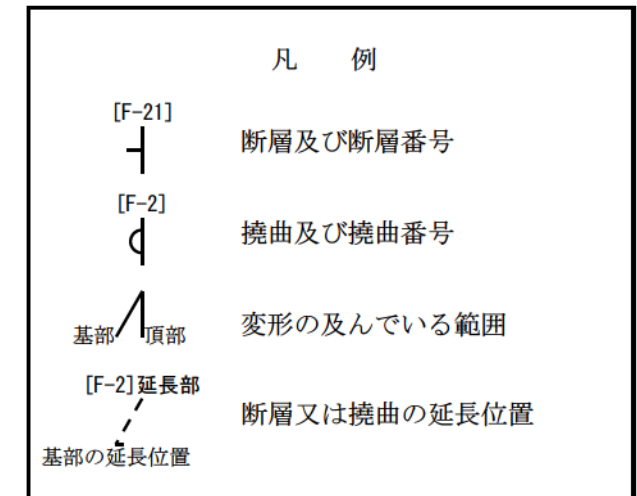
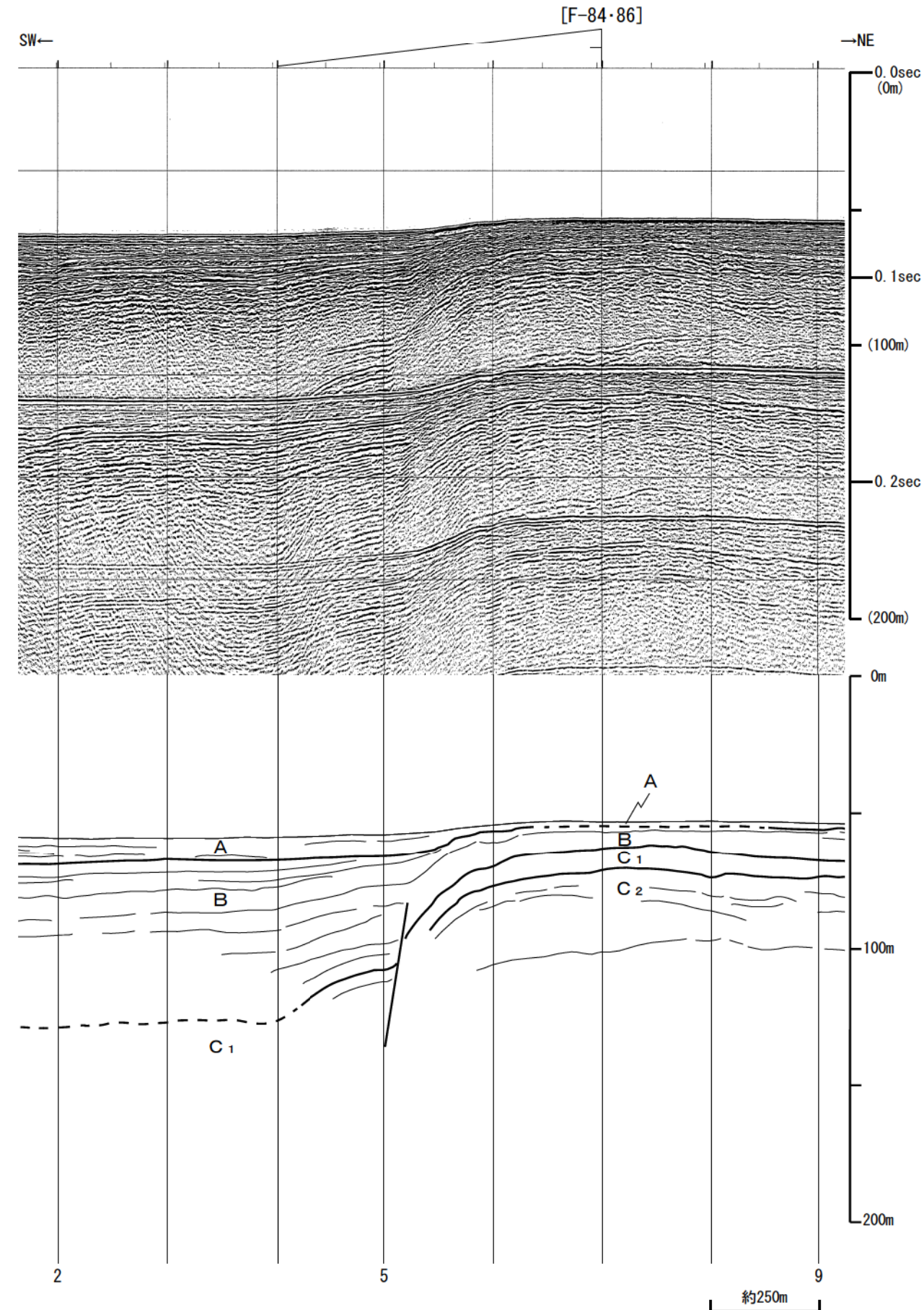
海保(1980)
スパーカー



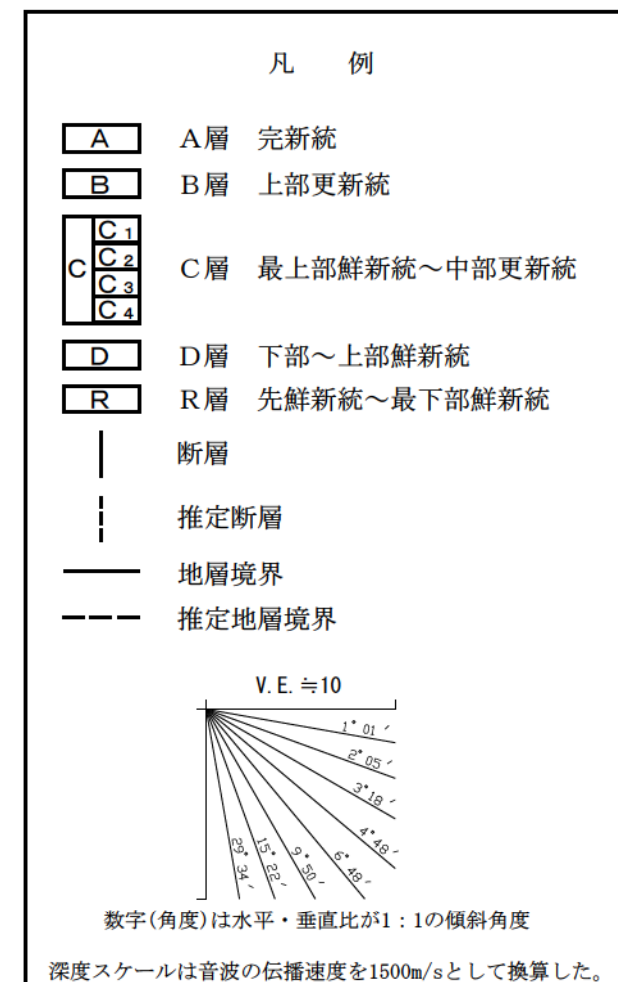
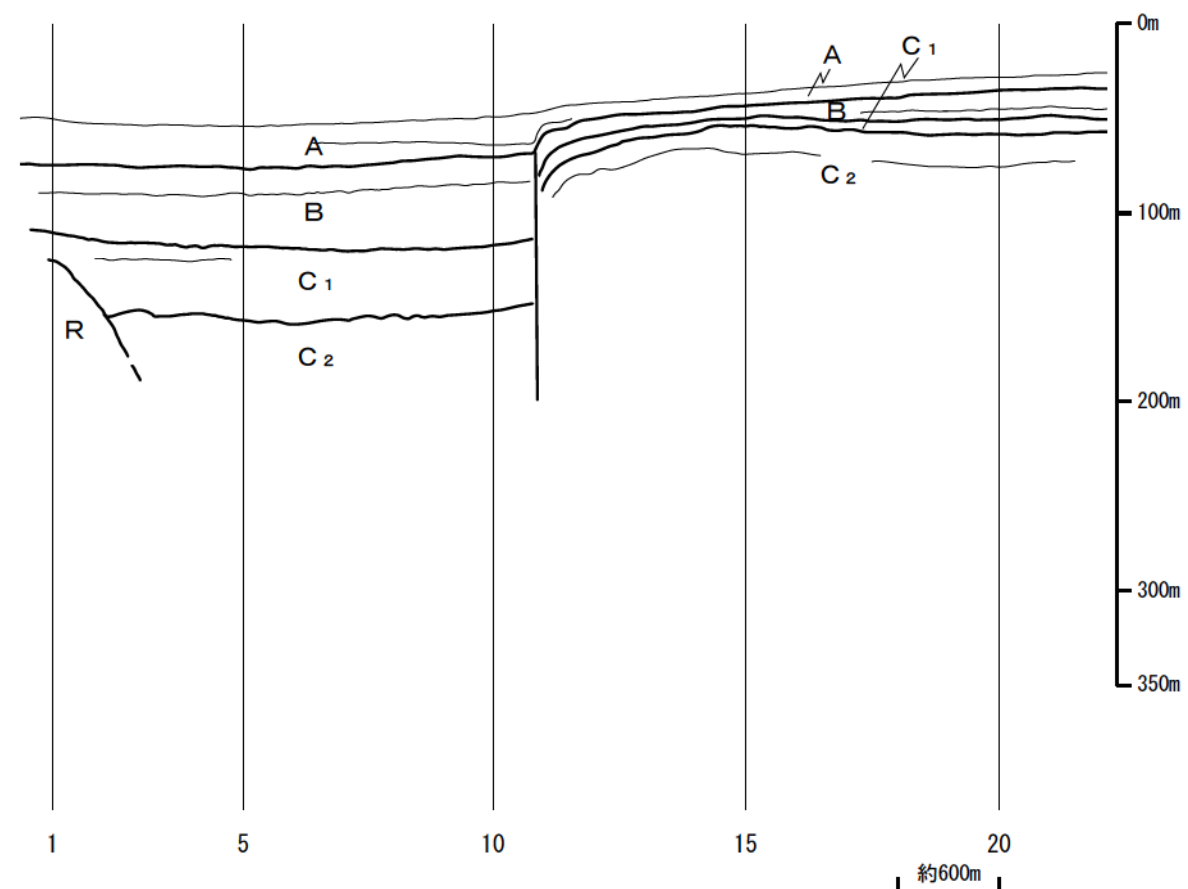
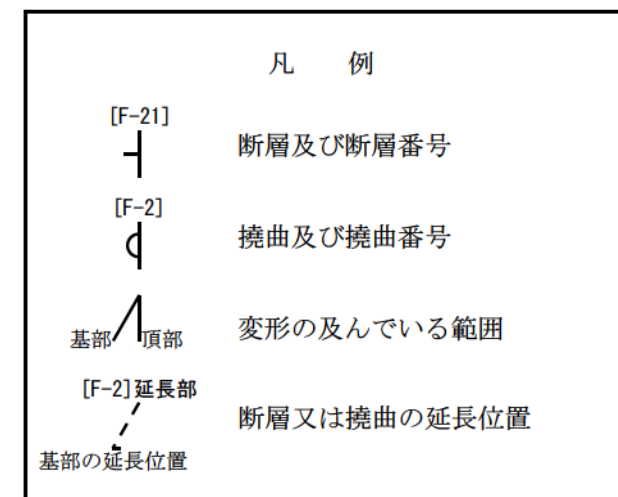
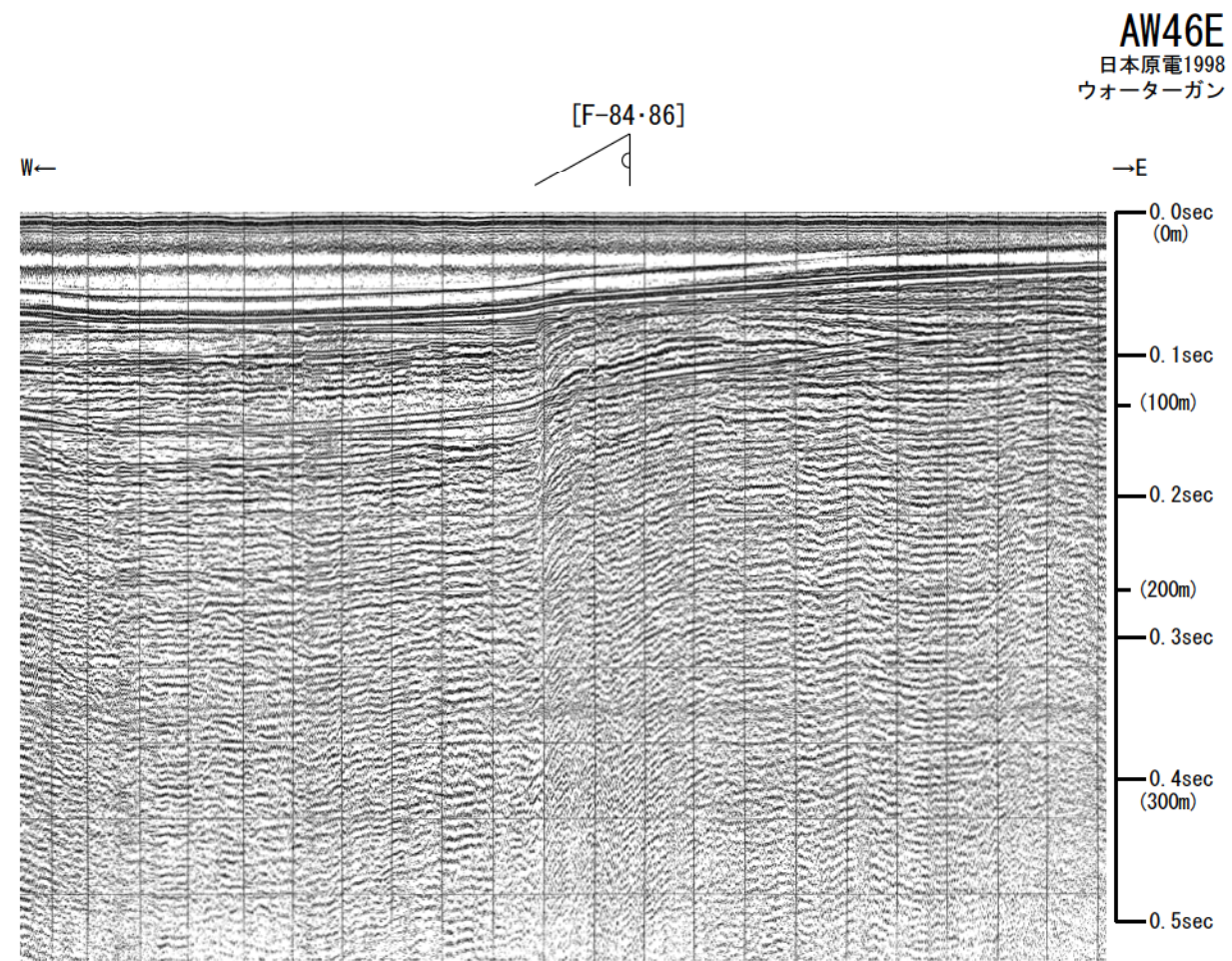
音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾東部」の原資料である。
地質断面図は、申請者の解釈によるものである。



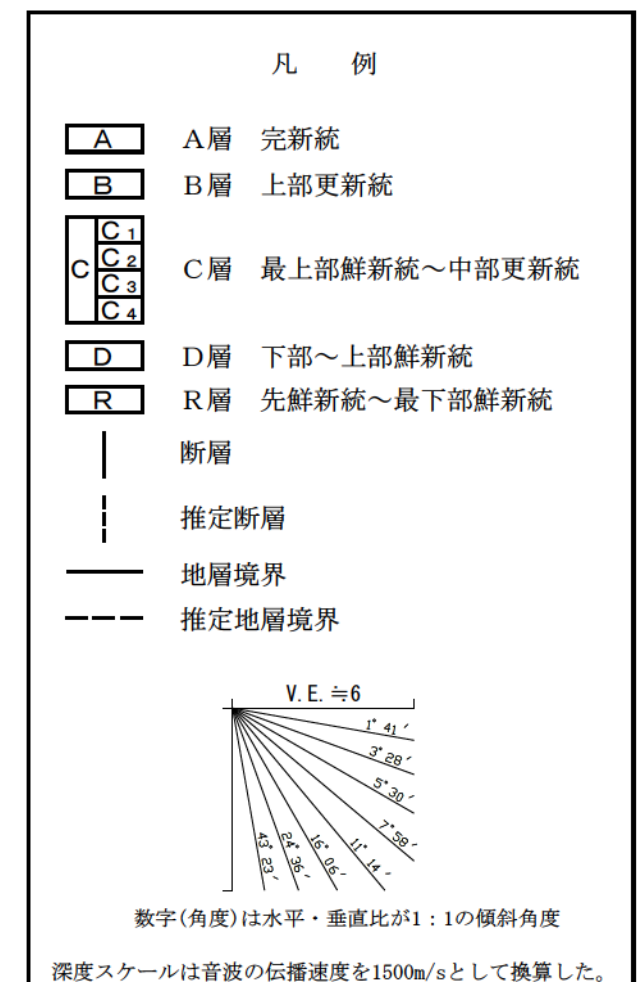
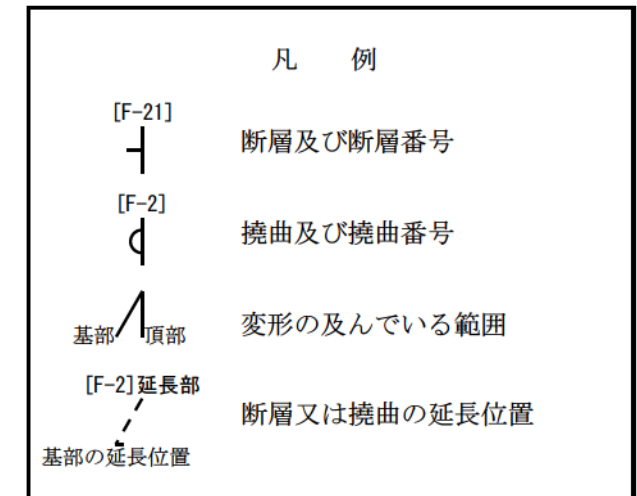
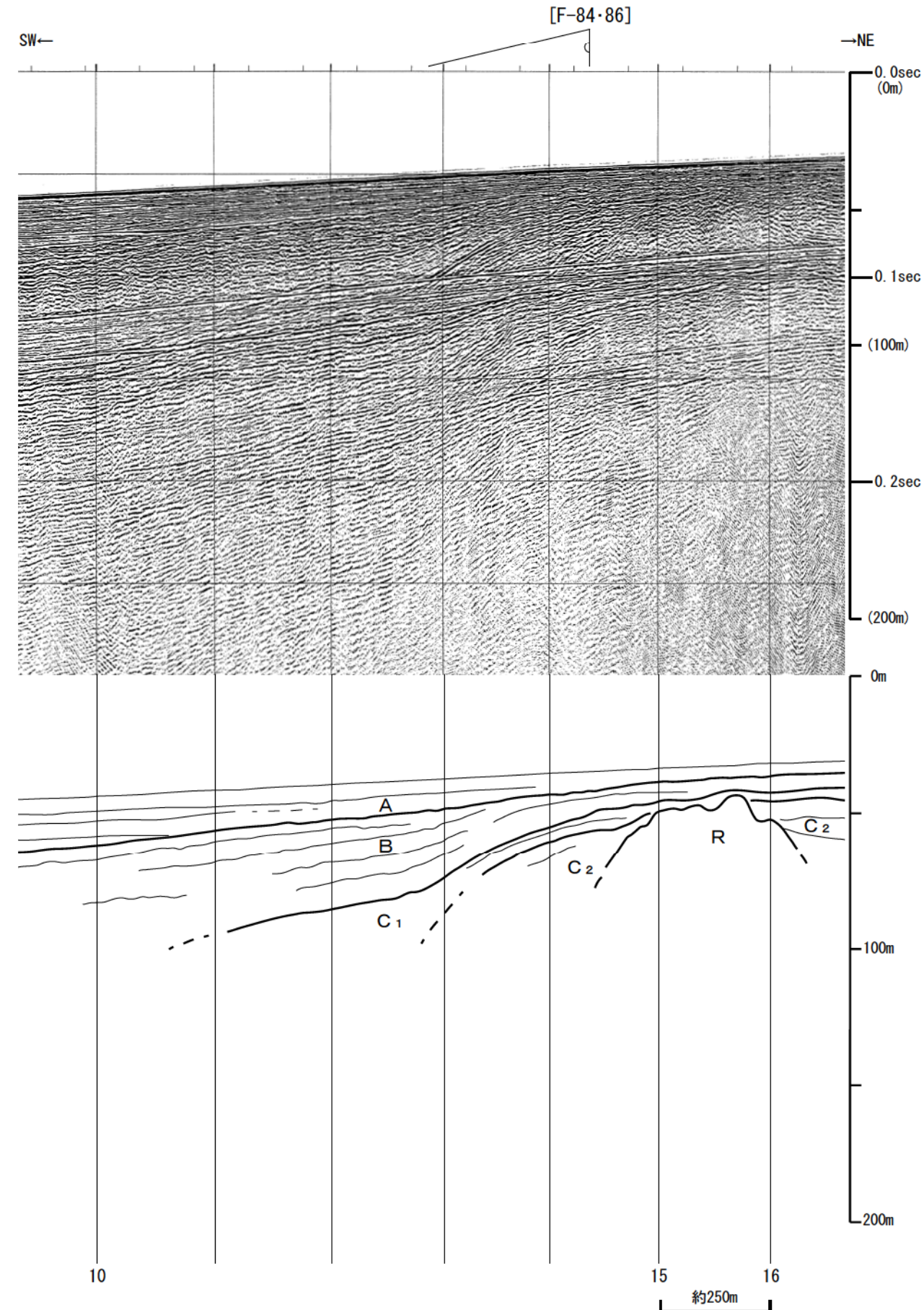
第1.3.196図(1) 三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（No. 40-2）



第1.3.196図(2) 三方断層(海域)の海上音波探査記録及び地質断面図(NDGM7)

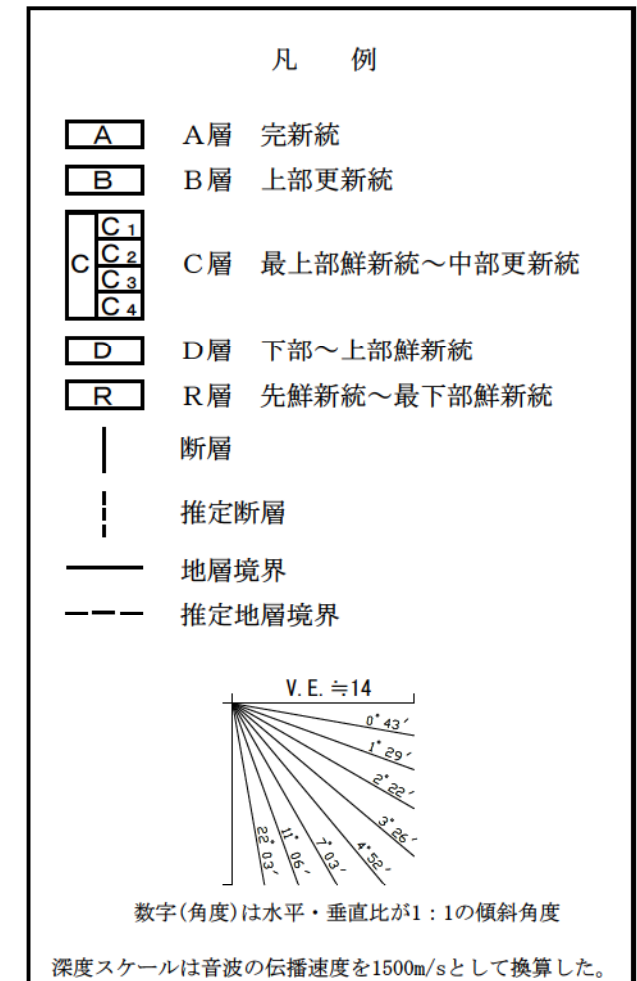
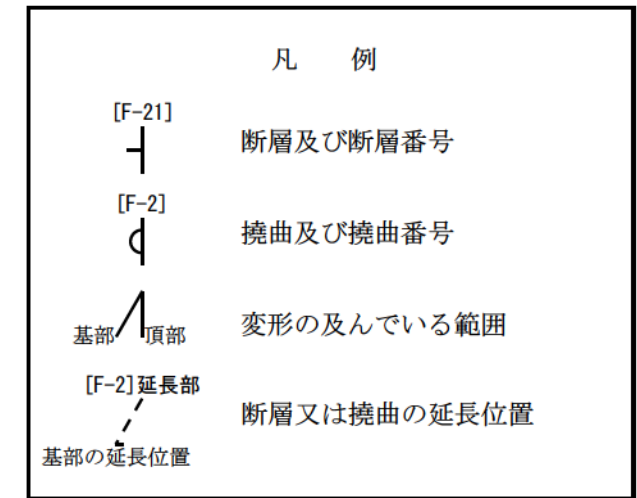
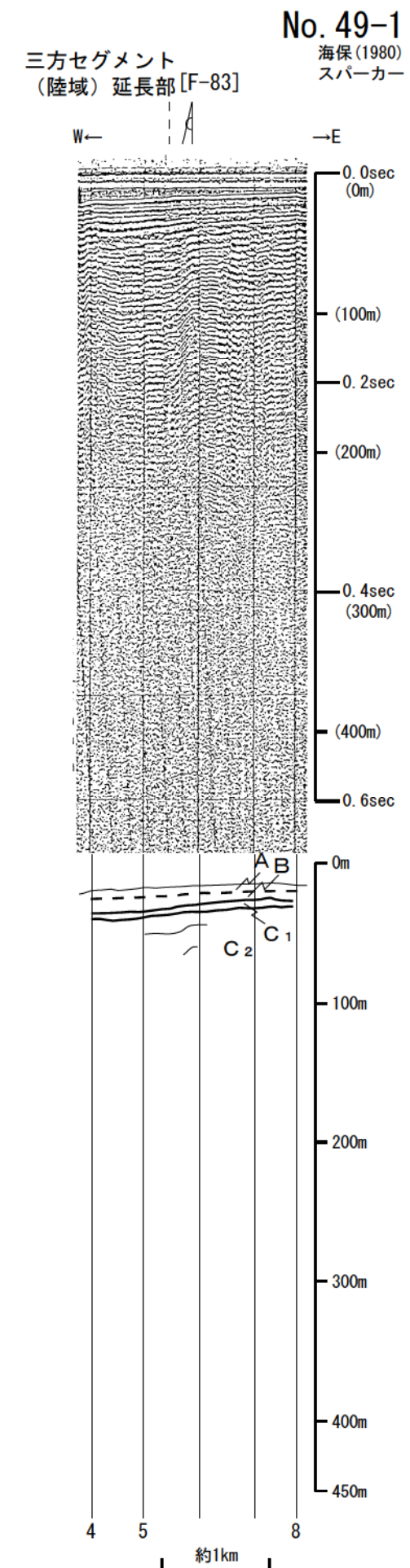


第1.3.196図(3) 三方断層(海域)の海上音波探査記録及び地質断面図(AW46E)



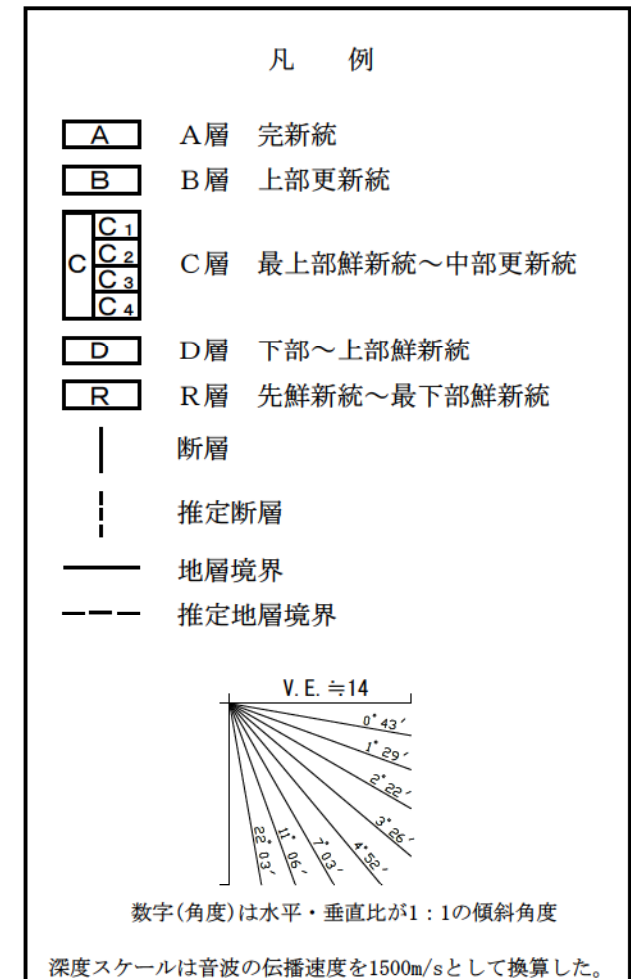
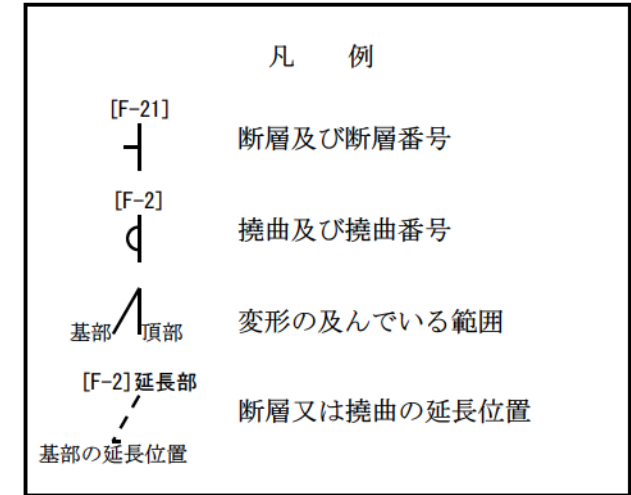
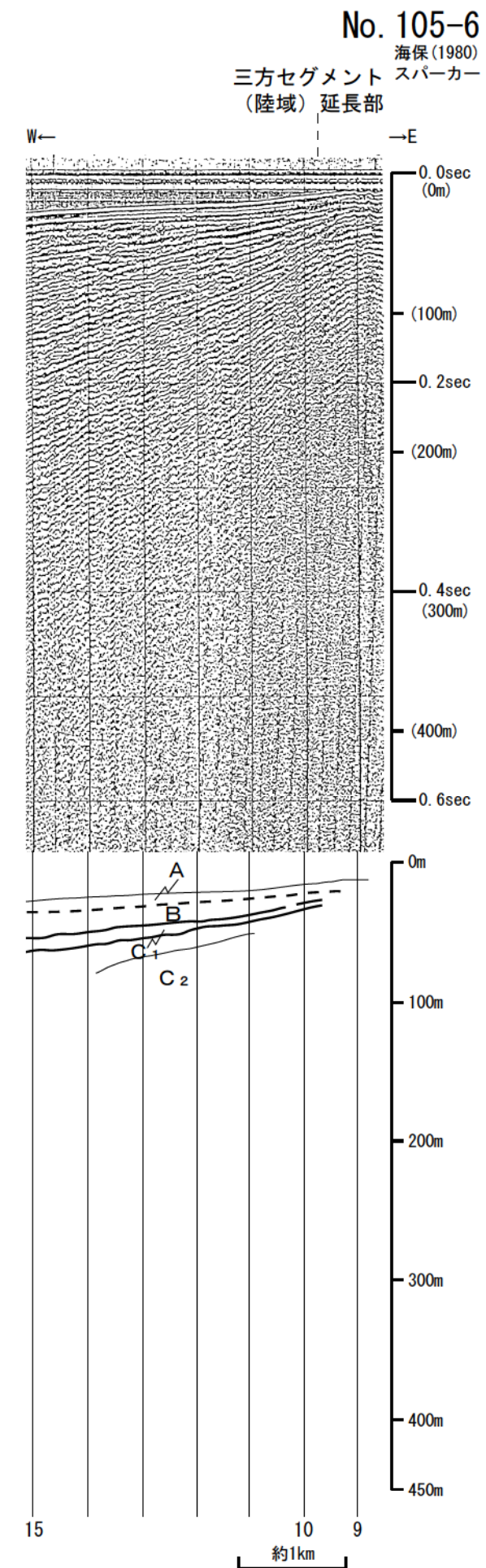
第1.3.196図(4) 三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（NDGM17）

音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾東部」の原資料である。
地質断面図は、申請者の解釈によるものである。

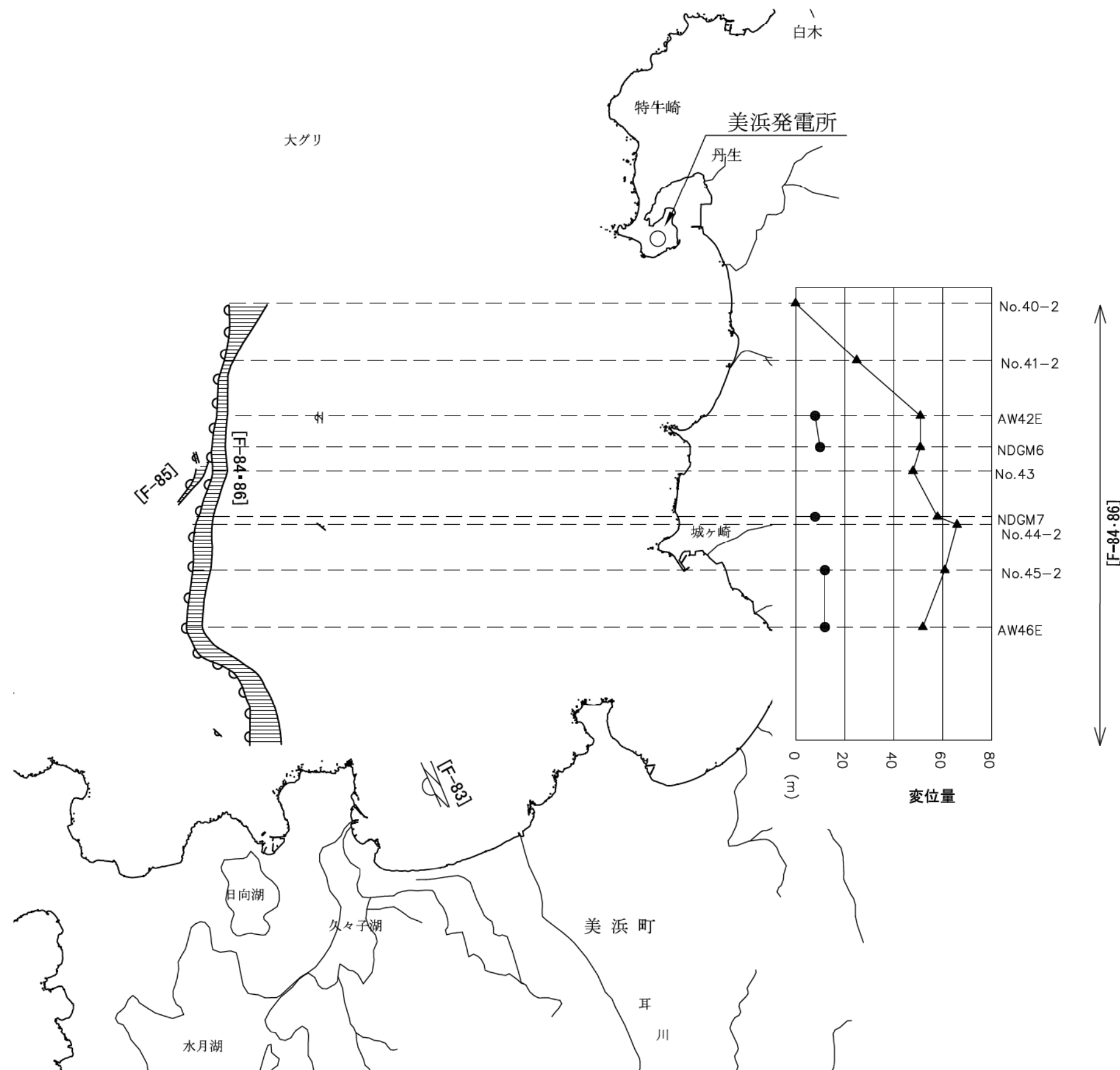
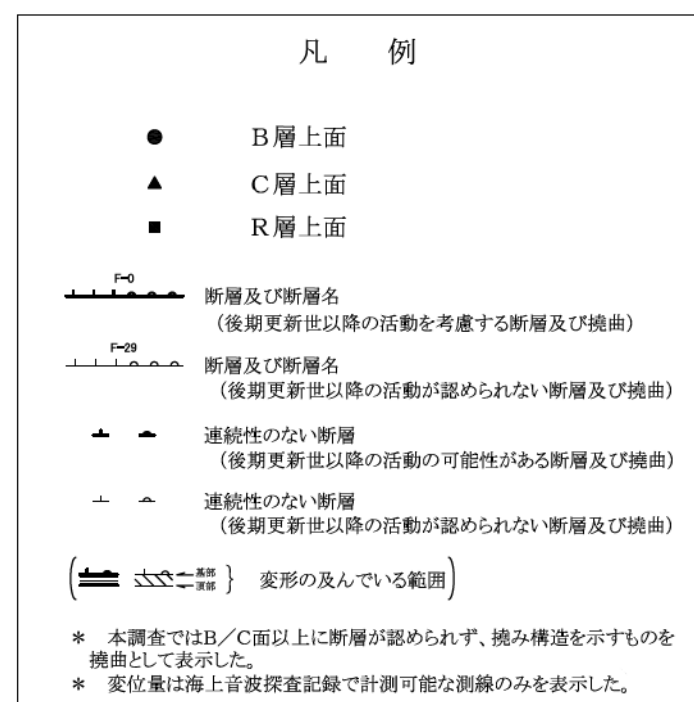


第1. 3. 196図(5) 三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（No. 49-1）

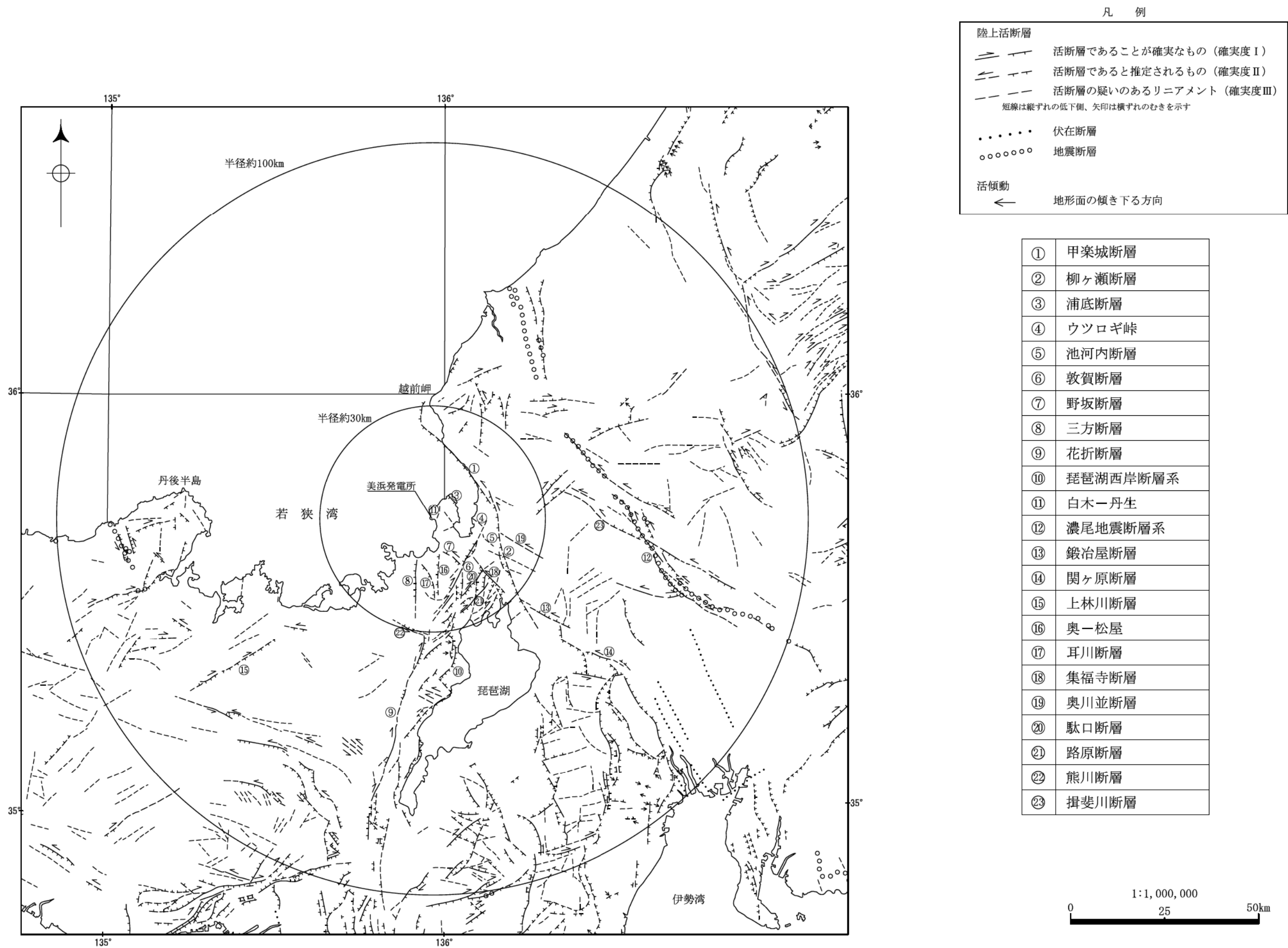
音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾東部」の原資料である。
地質断面図は、申請者の解釈によるものである。



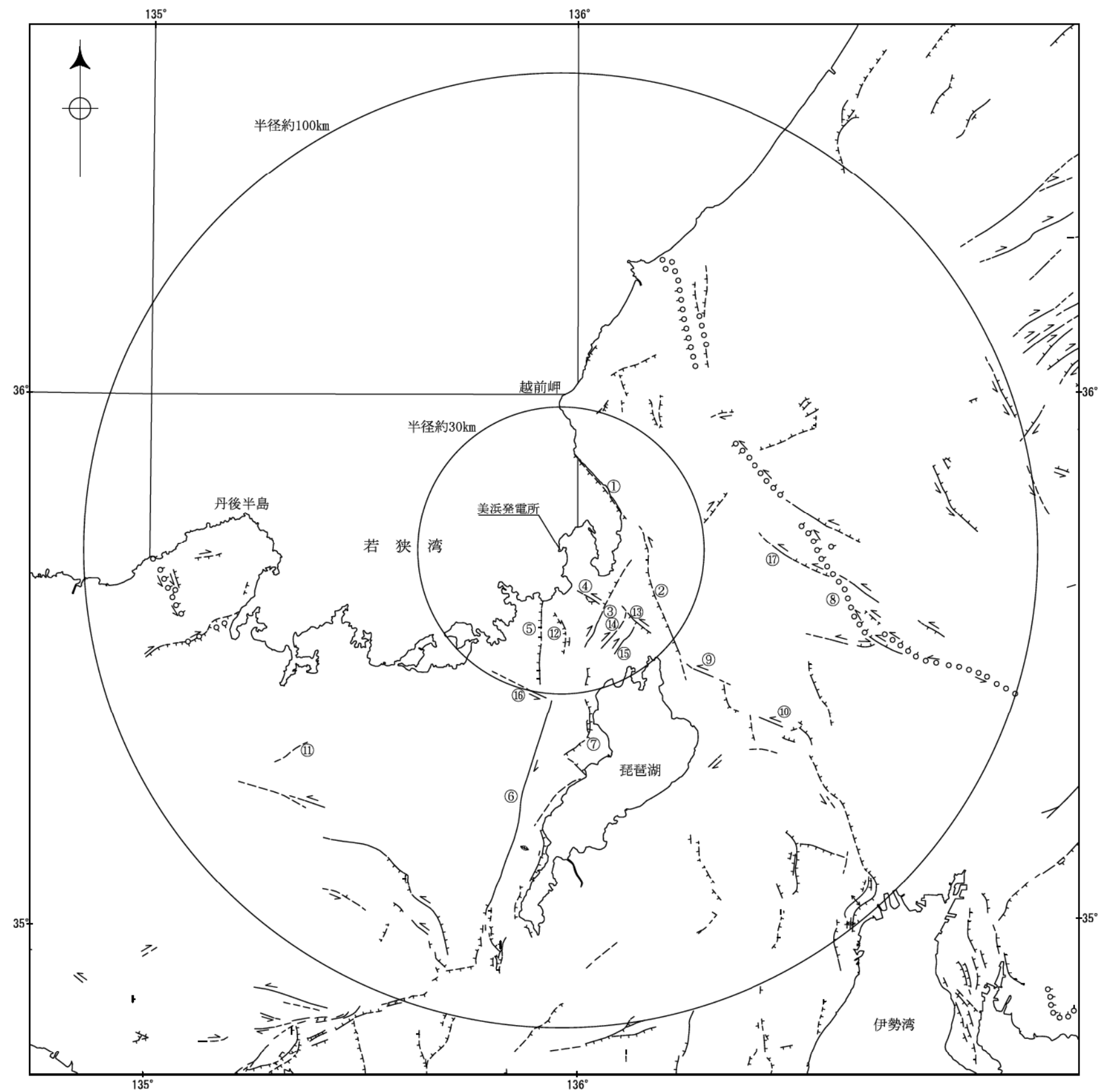
第1.3.196図(6) 三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（No. 105-6）



第1.3.197図 三方断層の変位量分布図

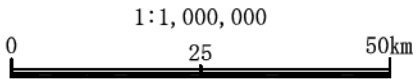


第1. 3. 198図 敷地周辺陸域の活断層分布図「〔新編〕日本の活断層」
 （半径約100km）
 6-1-574



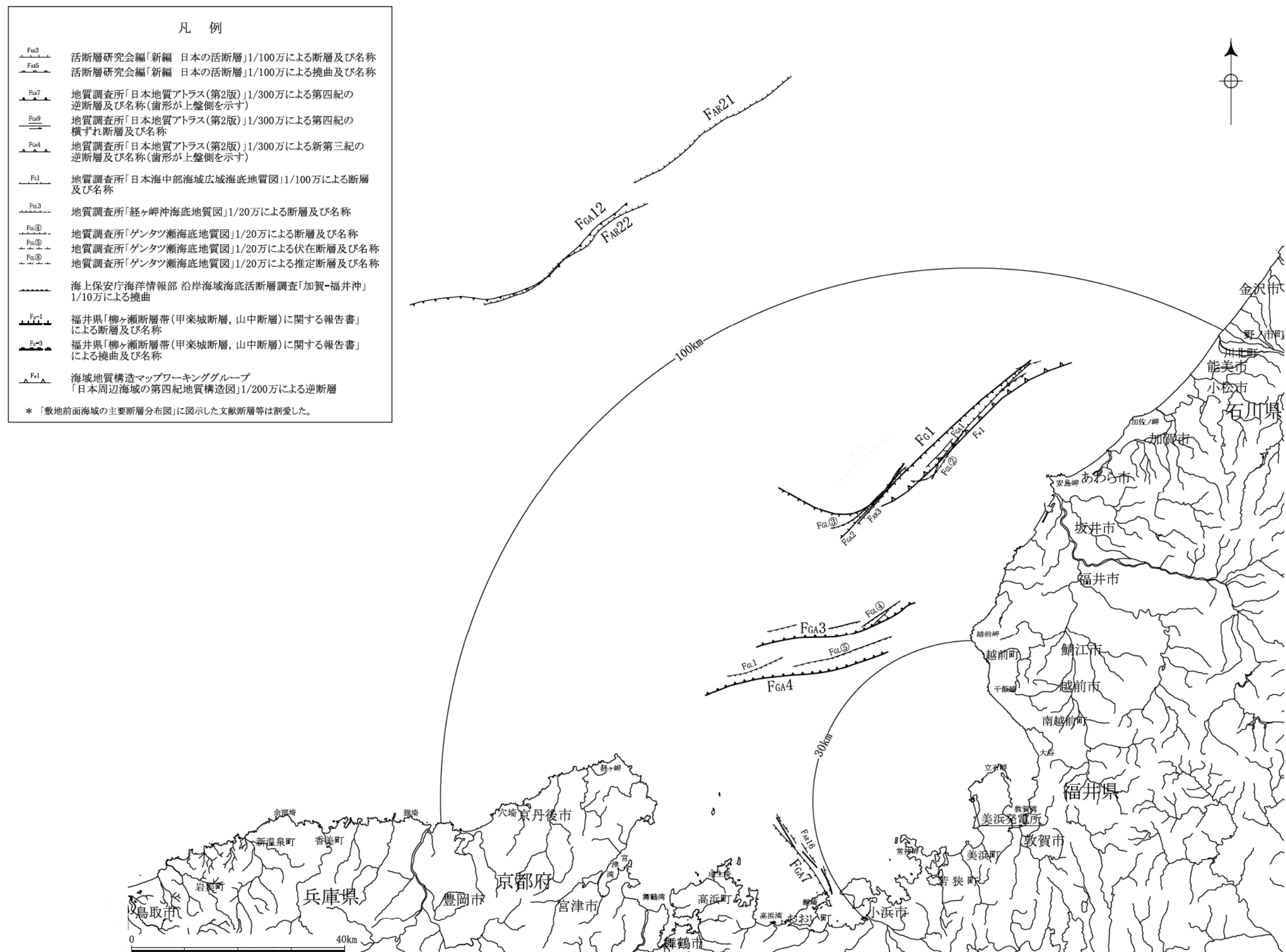
凡 例	
○○○○○○○	地震断層
—————	活断層（主として第四紀後期に活動したもの）
- - - - -	推定活断層（同上）
○○○○○→	上記の断層における変位の向き （矢印は走向ずれの方向、ケバは落下側を示す）
↗↘	第四紀後期層の背斜軸

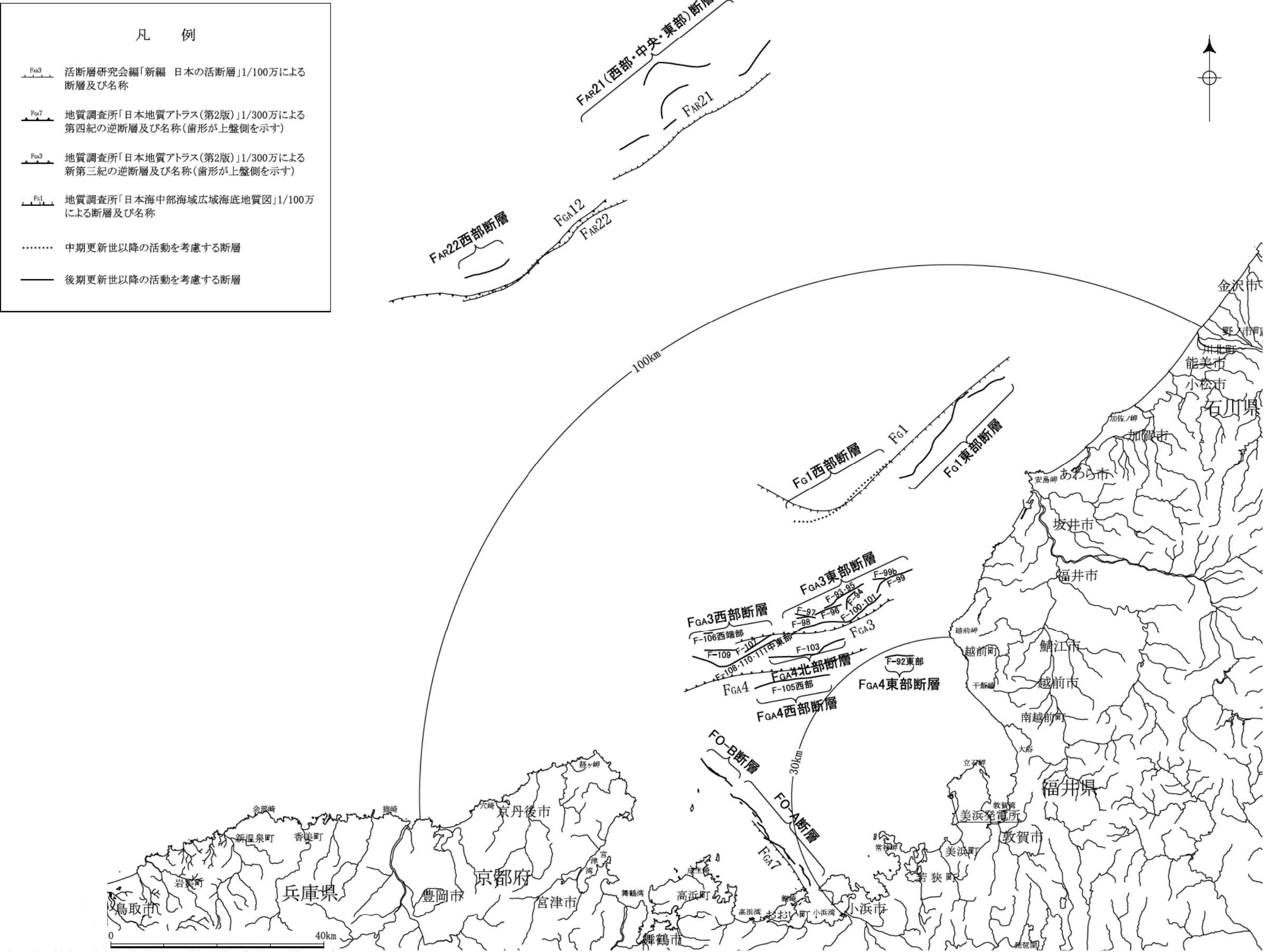
①	甲楽城断層
②	柳ヶ瀬断層
③	敦賀断層
④	野坂断層
⑤	三方断層
⑥	花折断層
⑦	琵琶湖西岸断層系
⑧	濃尾地震断層系
⑨	鍛冶屋断層
⑩	関ヶ原断層
⑪	上林川断層
⑫	耳川断層
⑬	集福寺断層
⑭	駄口断層
⑮	路原断層
⑯	熊川断層
⑰	揖斐川断層



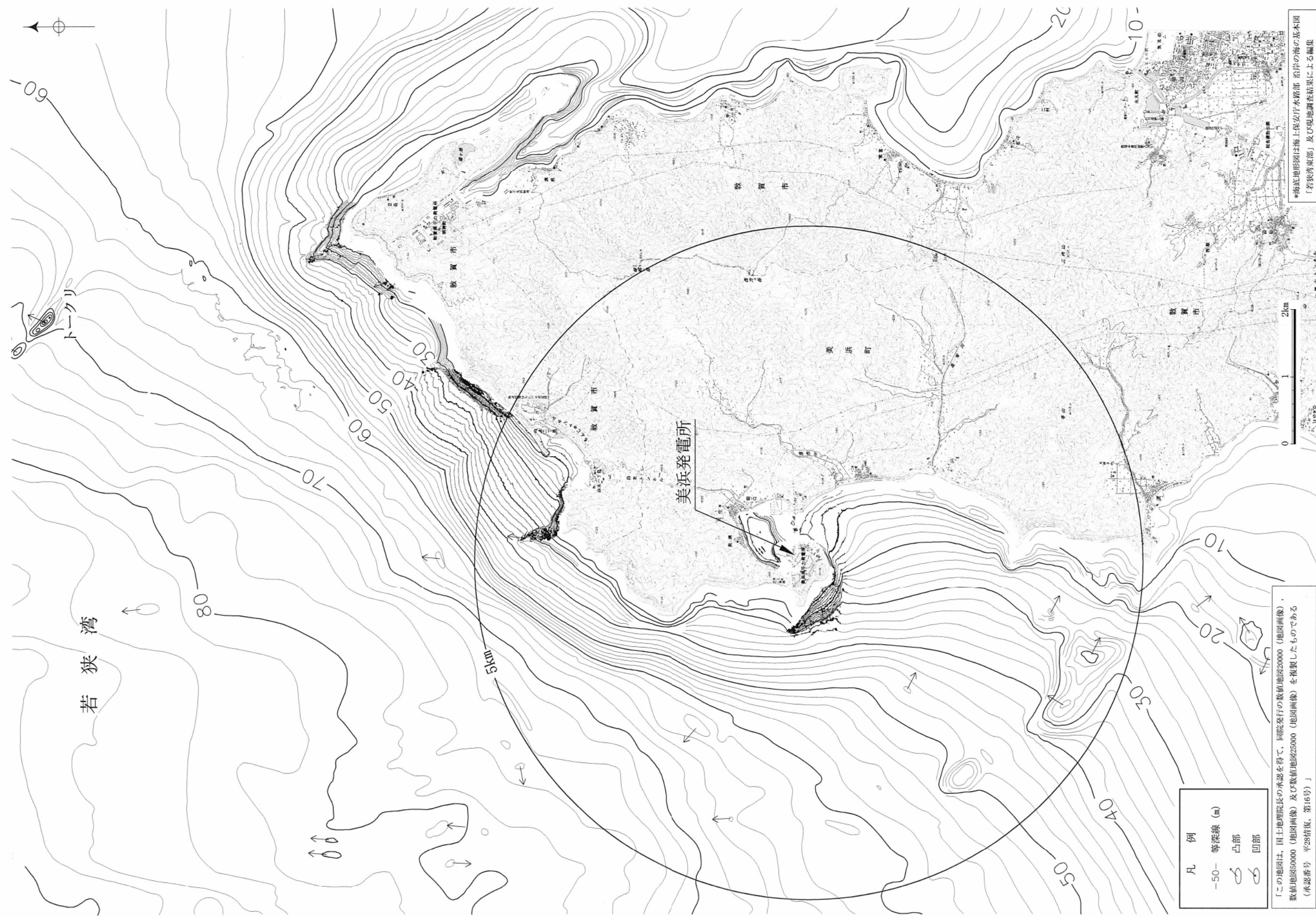
※『50万分の1活構造図「岡山」「金沢」「京都（第2版）」』より作成

第1. 3. 199図 敷地周辺陸域の活断層分布図「活構造図」
（半径約100km）

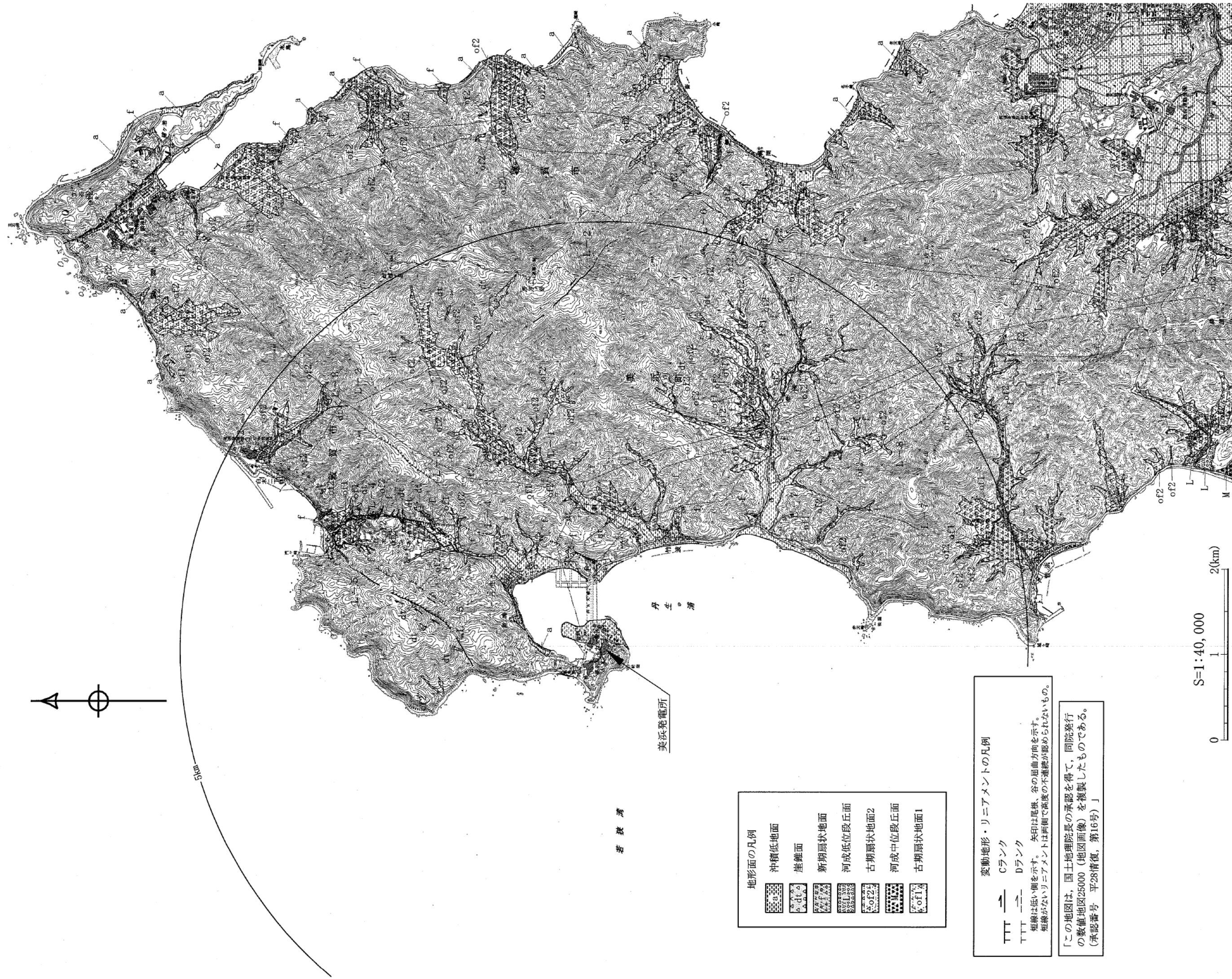




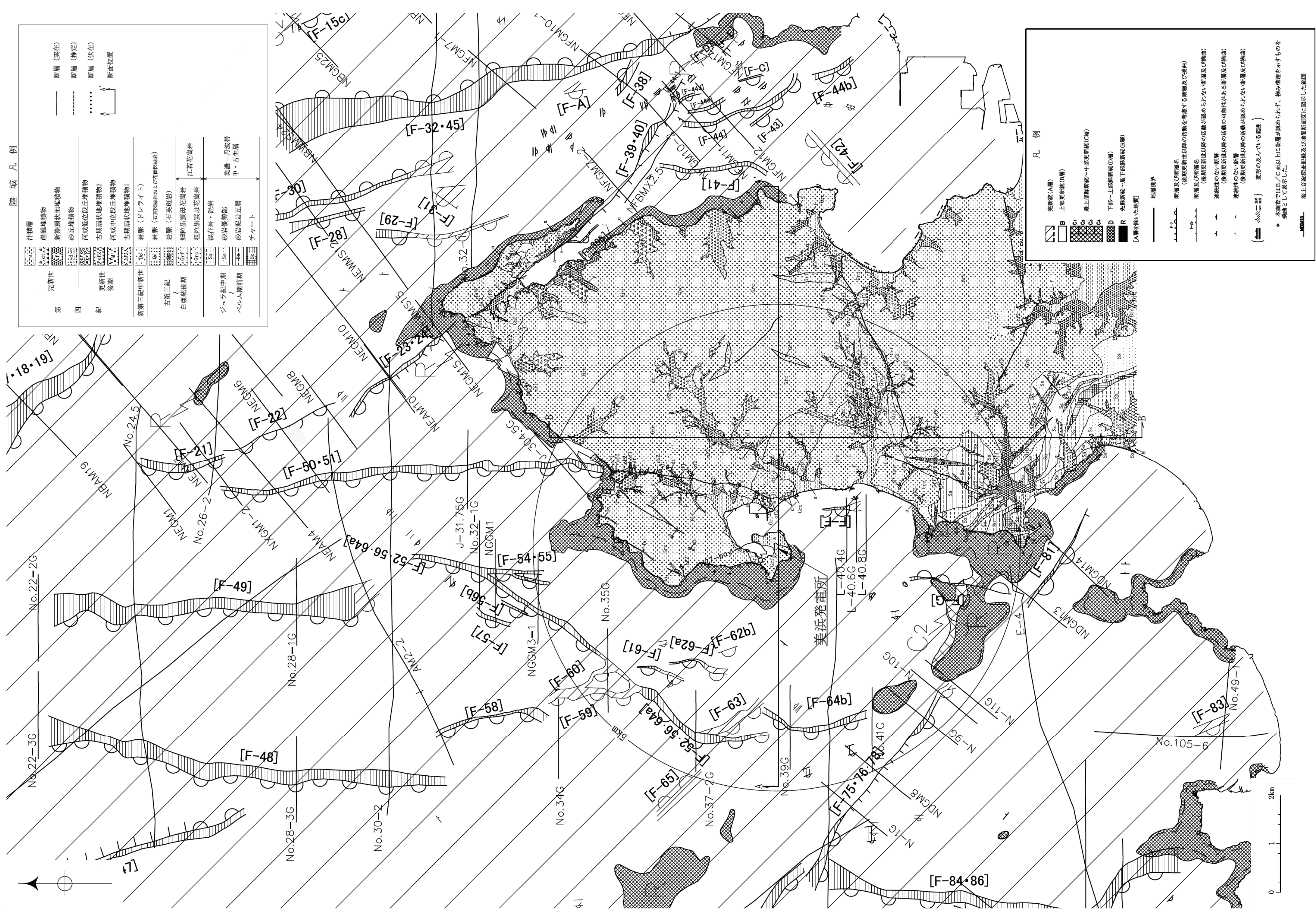
第1. 3. 201図 敷地周辺海域の主要断層評価図

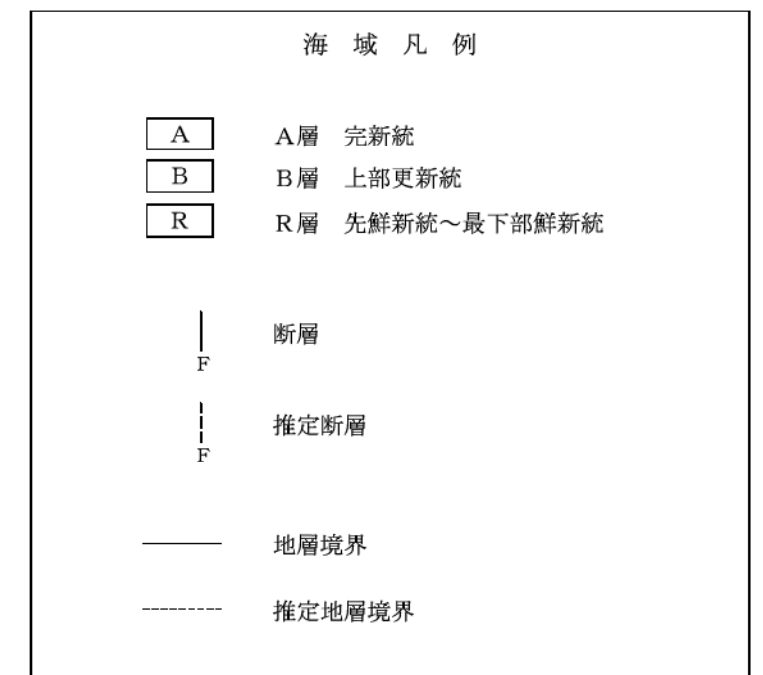
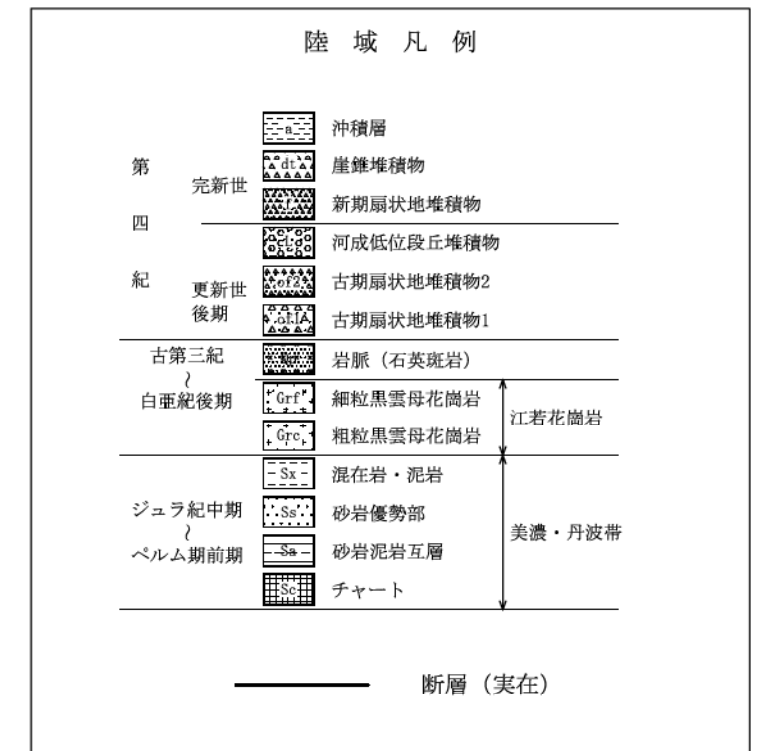


第1.4.1図 敷地近傍の地形図

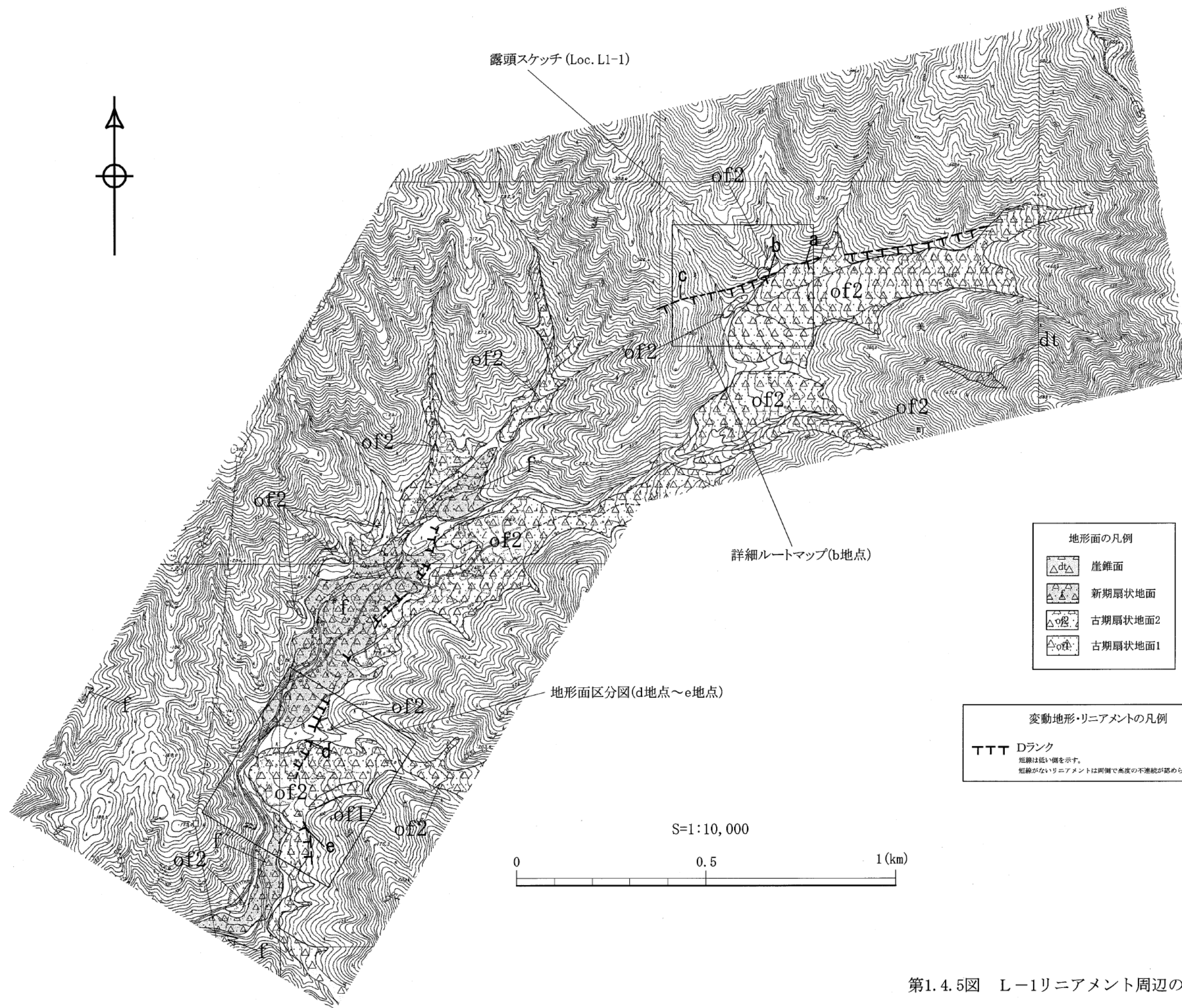


第1.4.2図 敷地近傍の地形調査結果

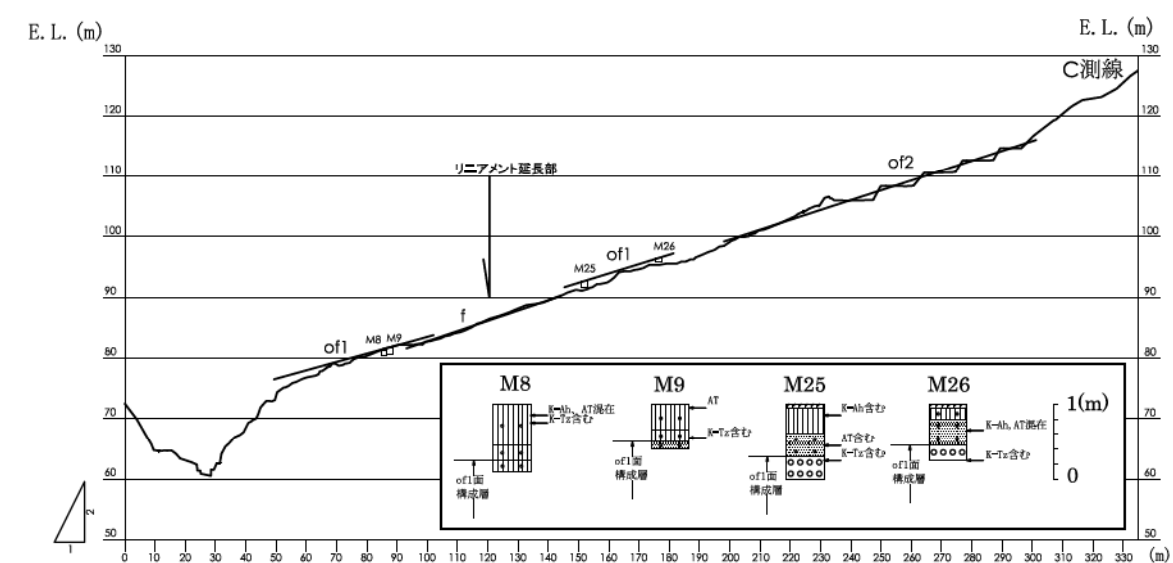
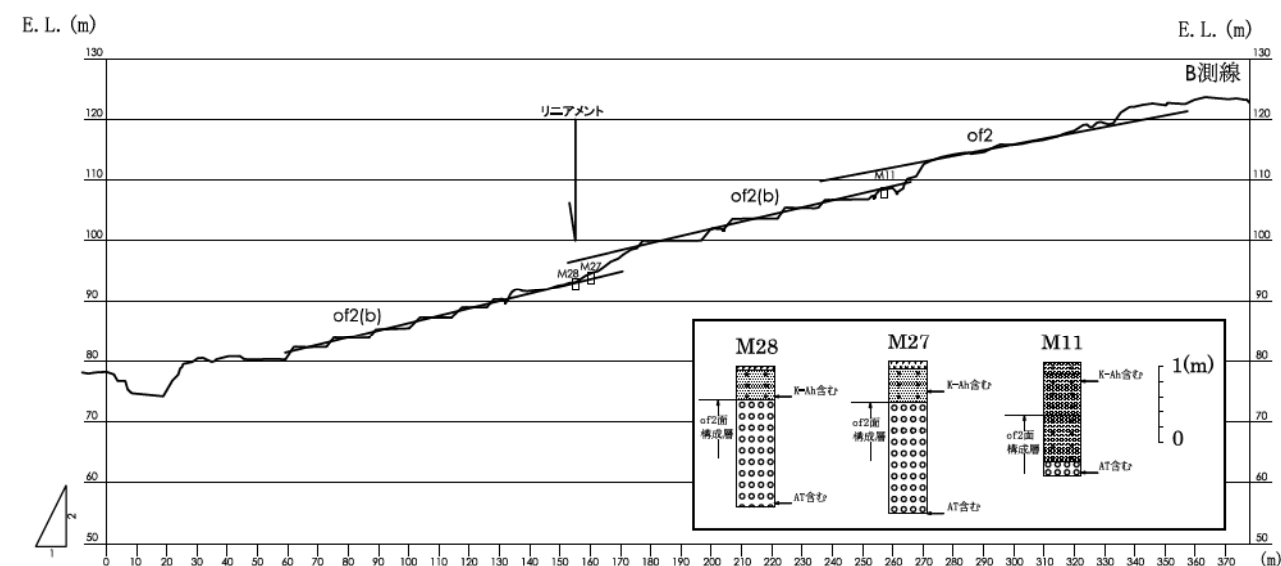
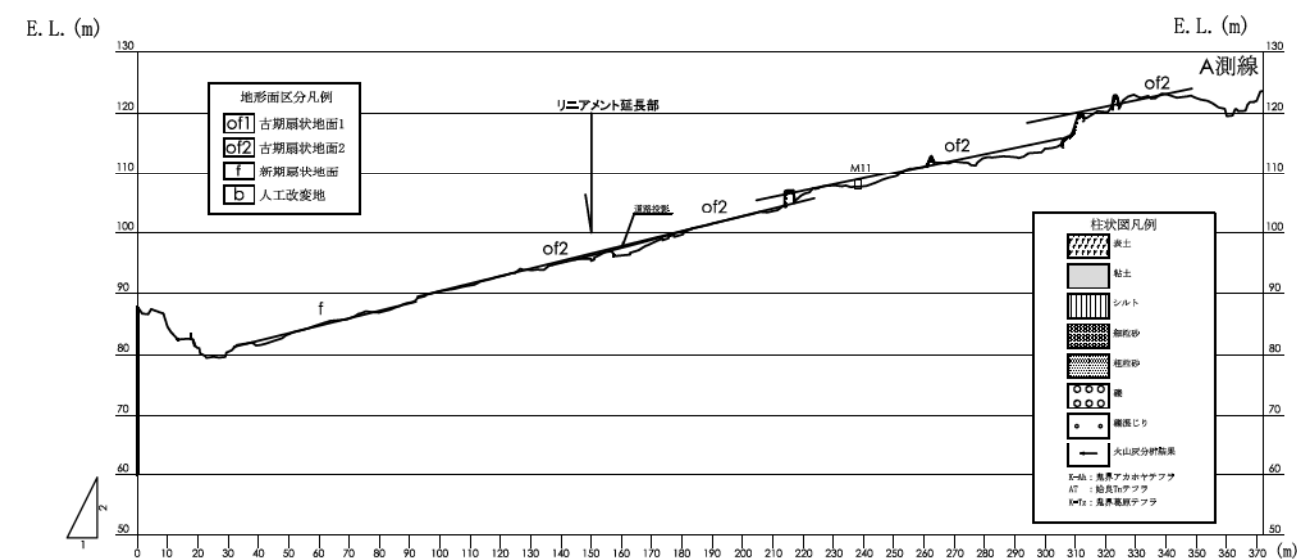
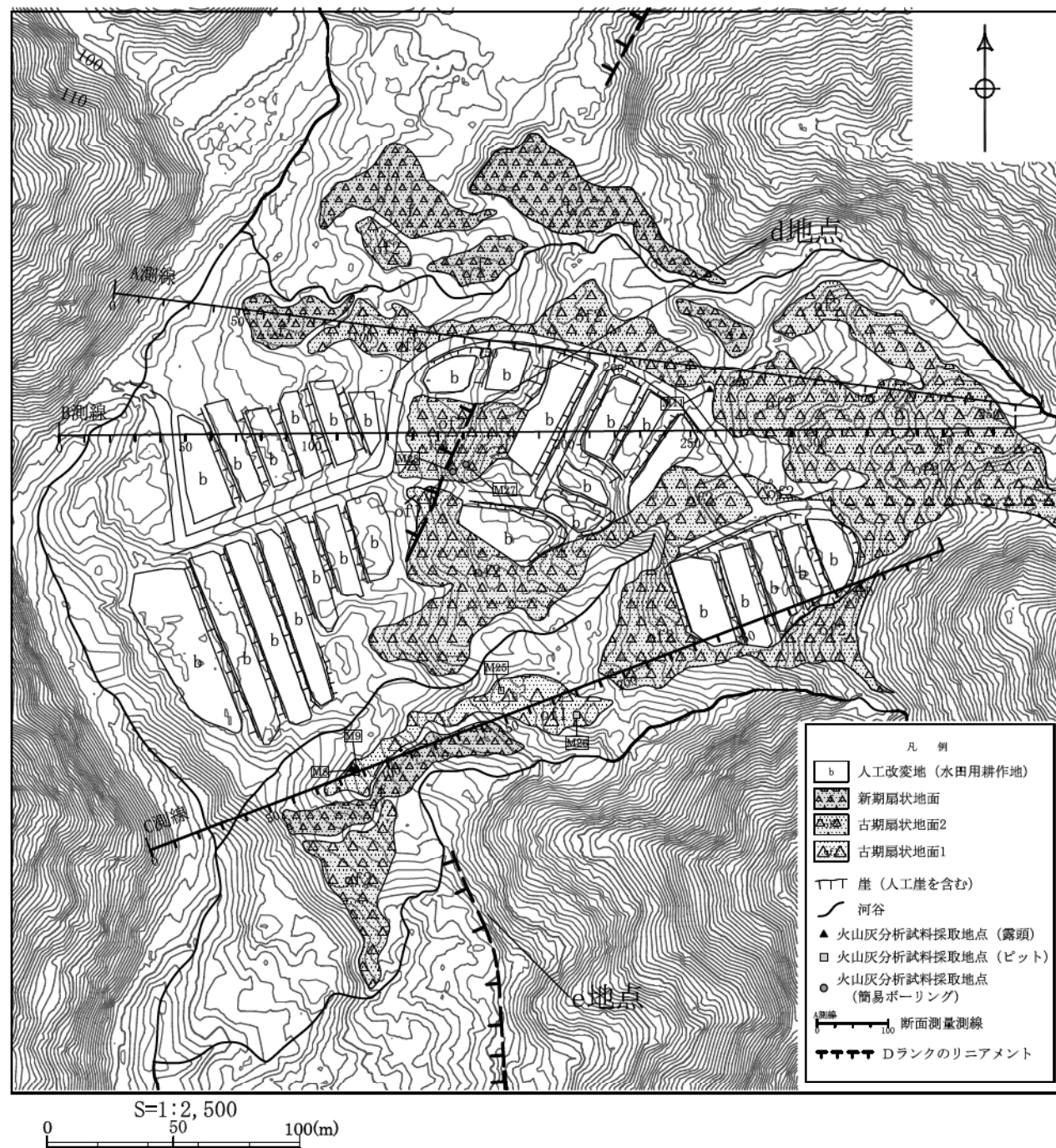




6-1-581



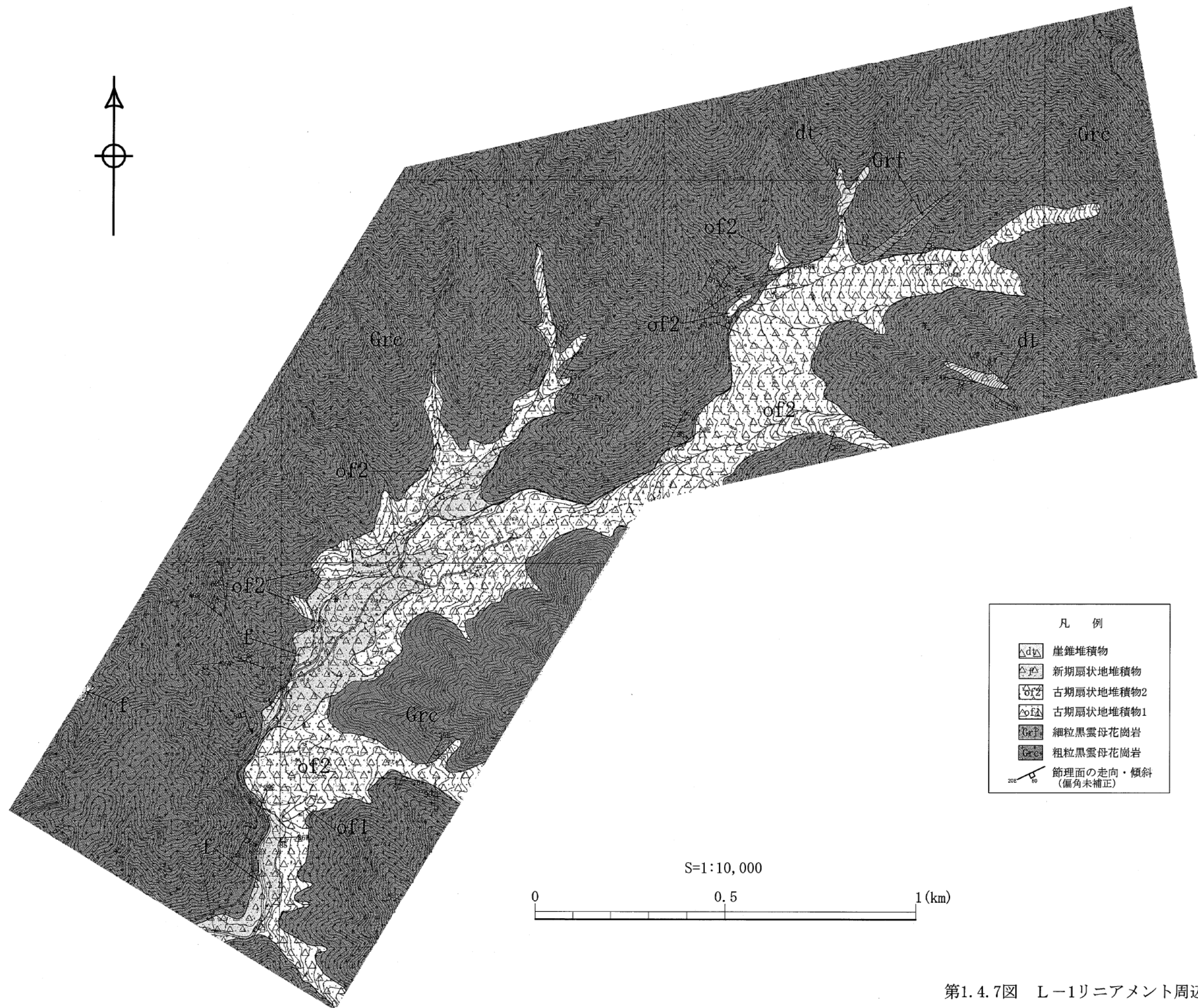
第1.4.5図 L-1リニアメント周辺の地形調査結果



地形面	構成層の層相等	火山灰分析結果	
		被覆層	地形面構成層
of1	・礫及び砂	・K-Ah、AT起源の粒子が混在 ・K-Tz起源の粒子を挟在	・K-Tz起源の粒子を挟在
of2	・礫及び砂	・K-Ah起源の粒子が混在	・AT起源の粒子を挟在

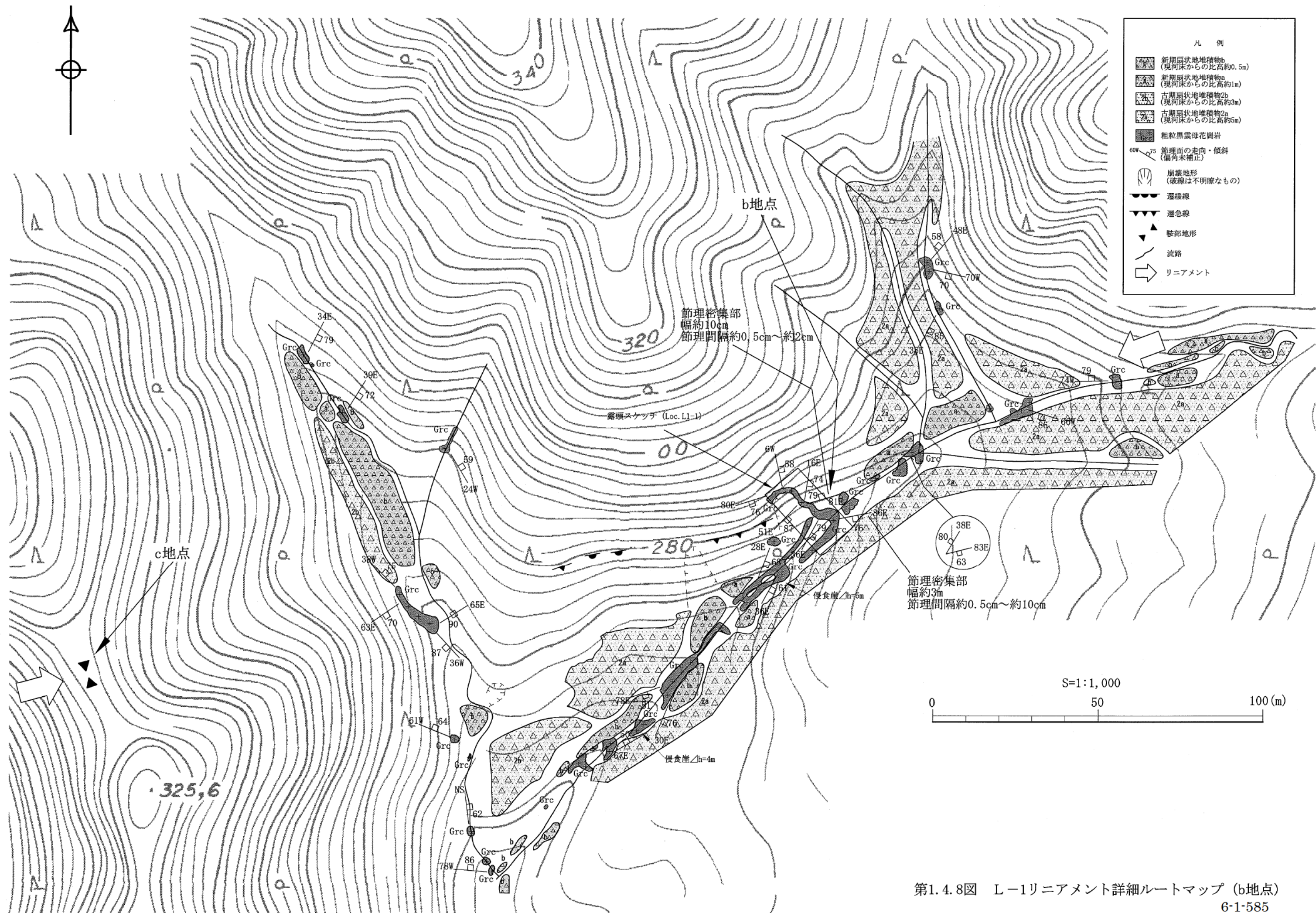
第1.4.6図 L-1リニアメント地形面区分図と地形断面図 (d地点～e地点)

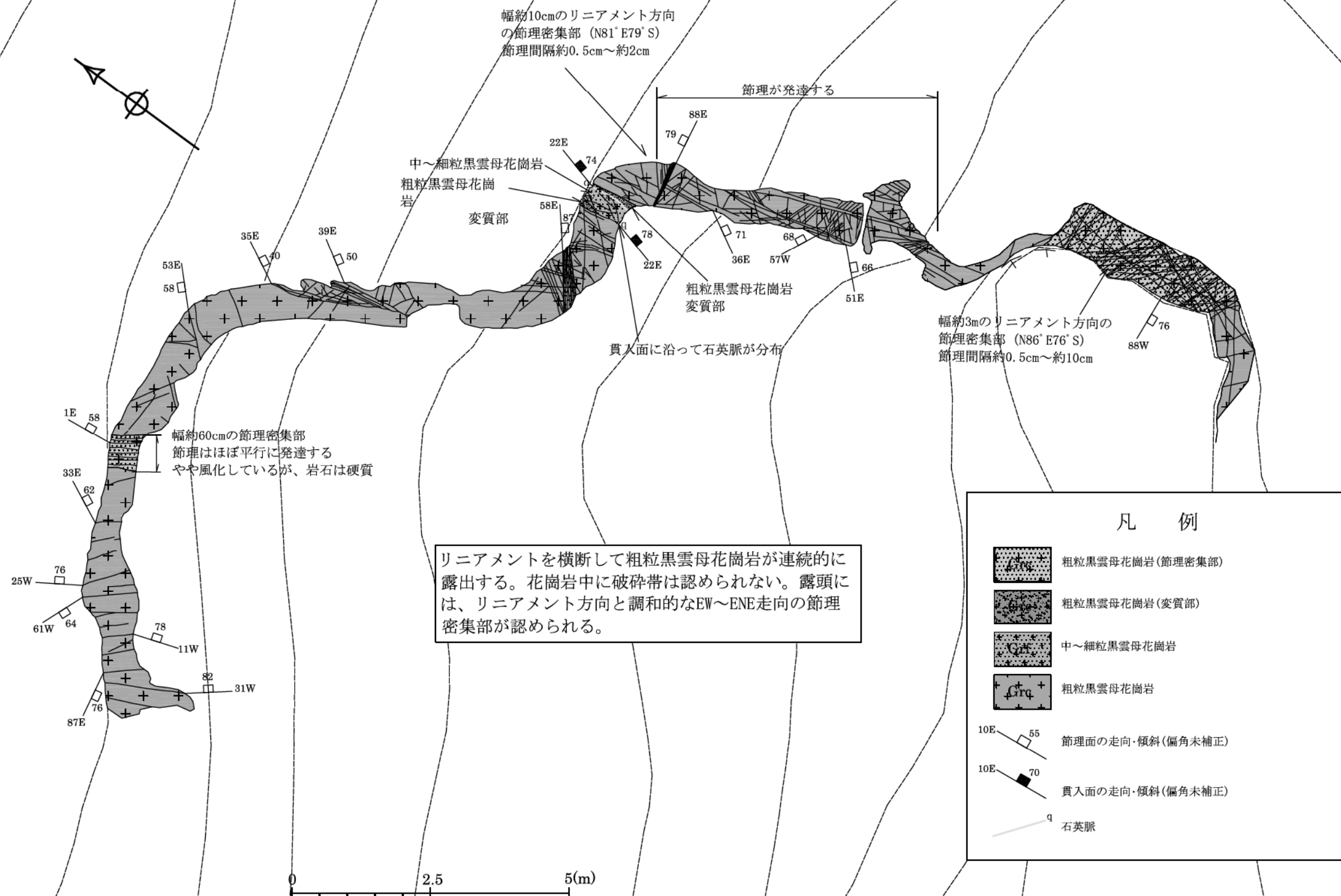
6-1-583



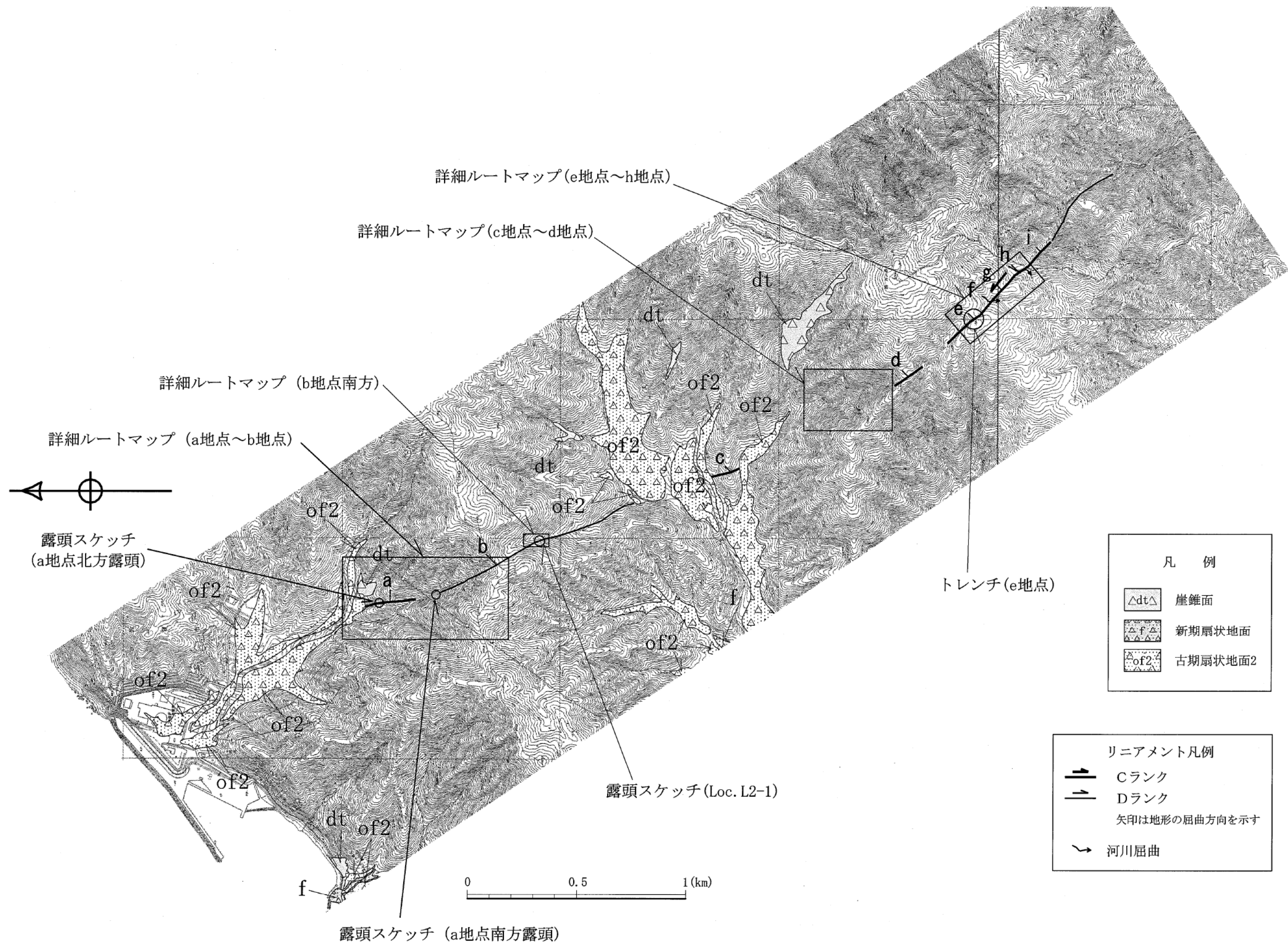
凡 例	
	崖錐堆積物
	新期扇状地堆積物
	古期扇状地堆積物2
	古期扇状地堆積物1
	細粒黒雲母花崗岩
	粗粒黒雲母花崗岩
	節理面の走向・傾斜 (偏角未補正)

第1.4.7図 L-1リニアメント周辺の地質図
6-1-584

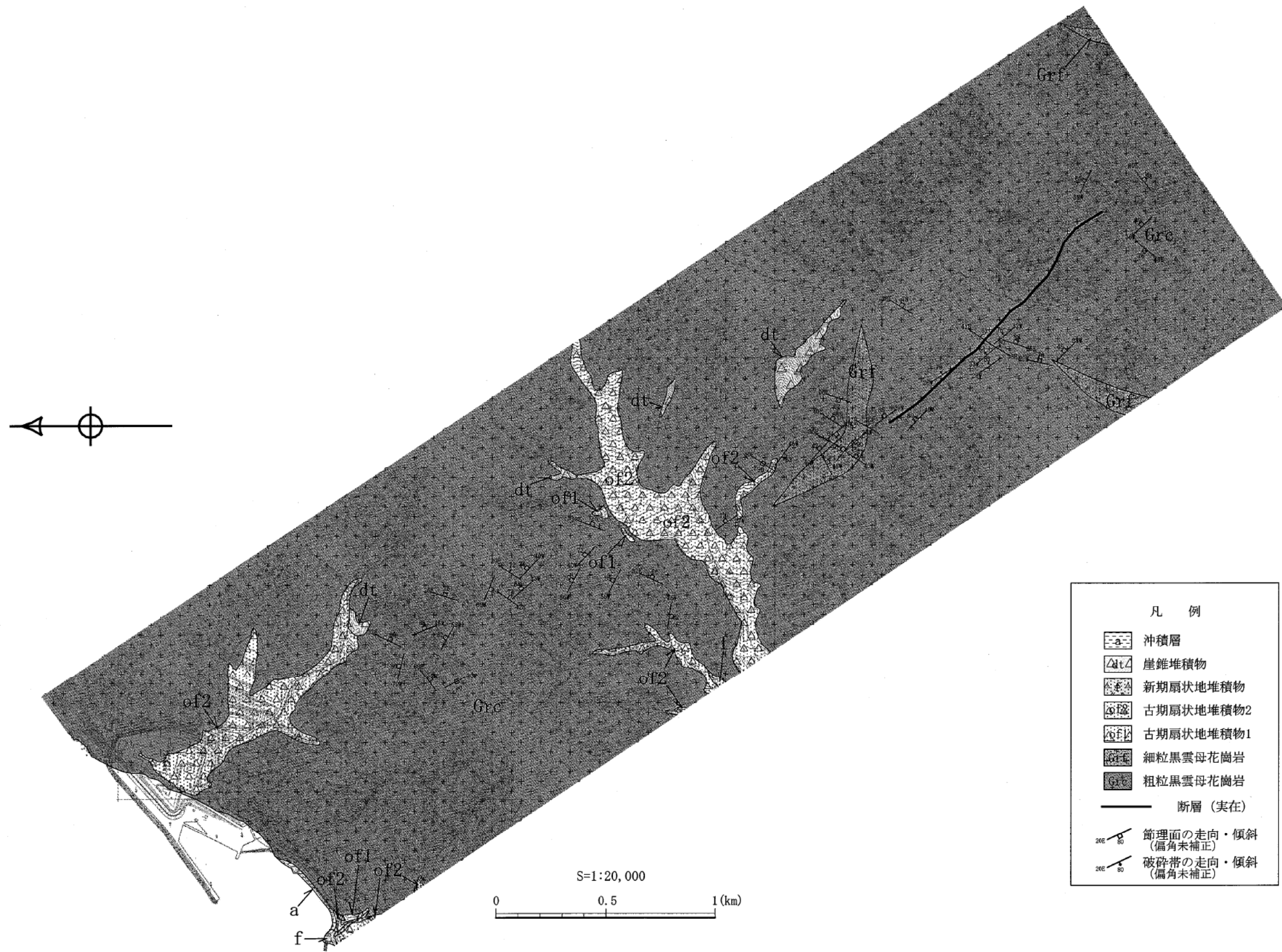




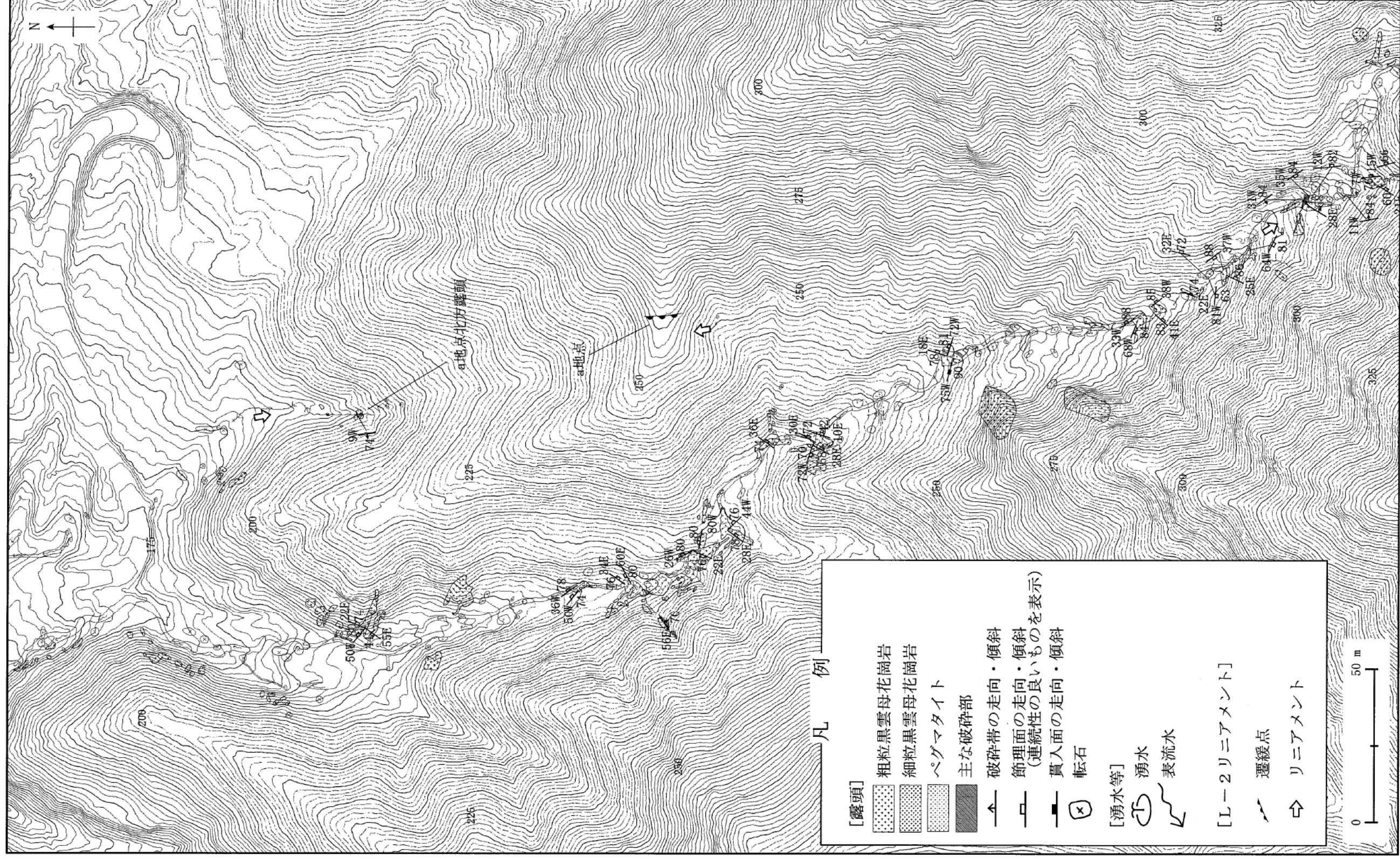
第1.4.9図 L-1リニアメントb地点の露頭スケッチ (Loc. L1-1)



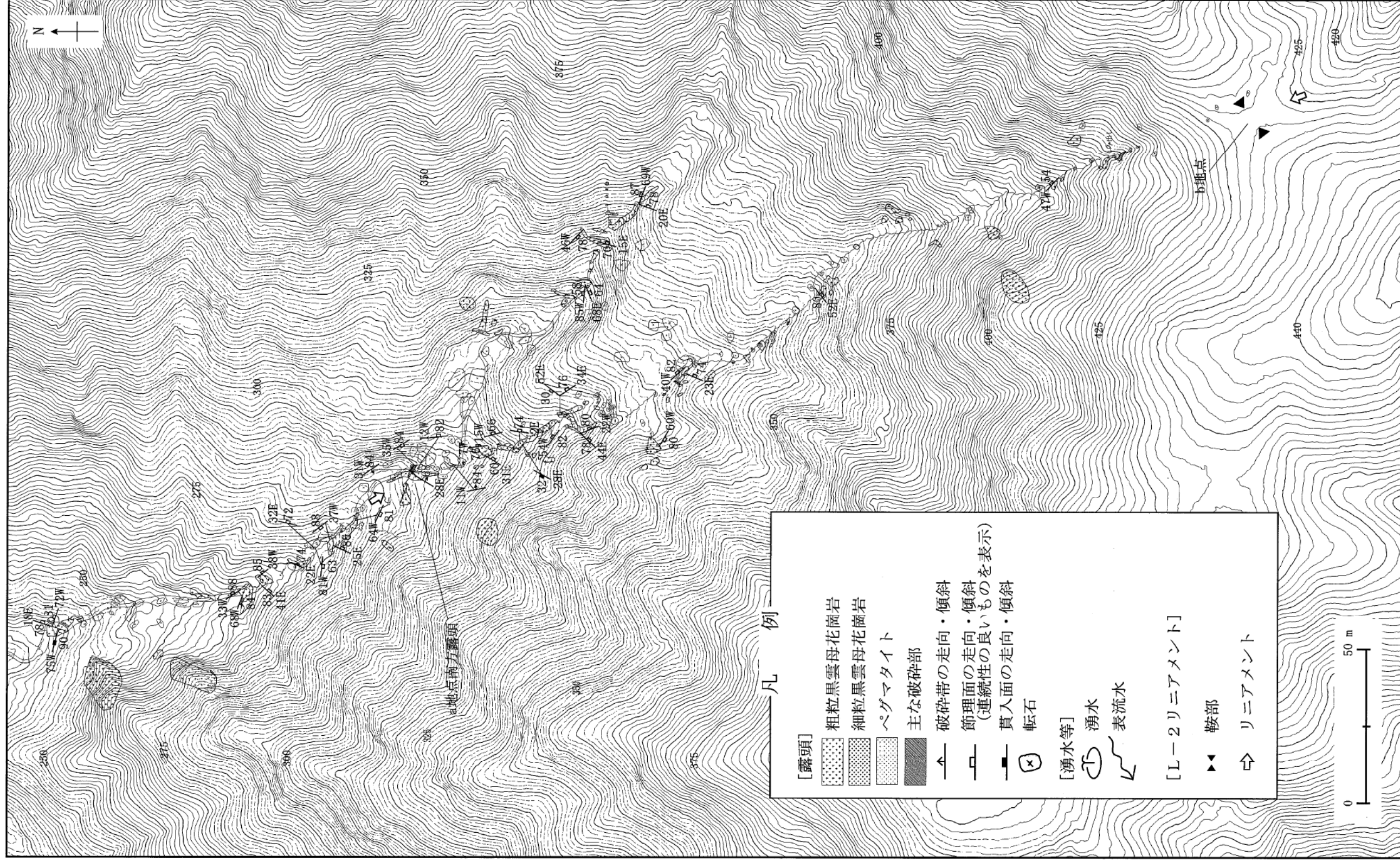
第1.4.10図 L-2リニアメント周辺の地形調査結果



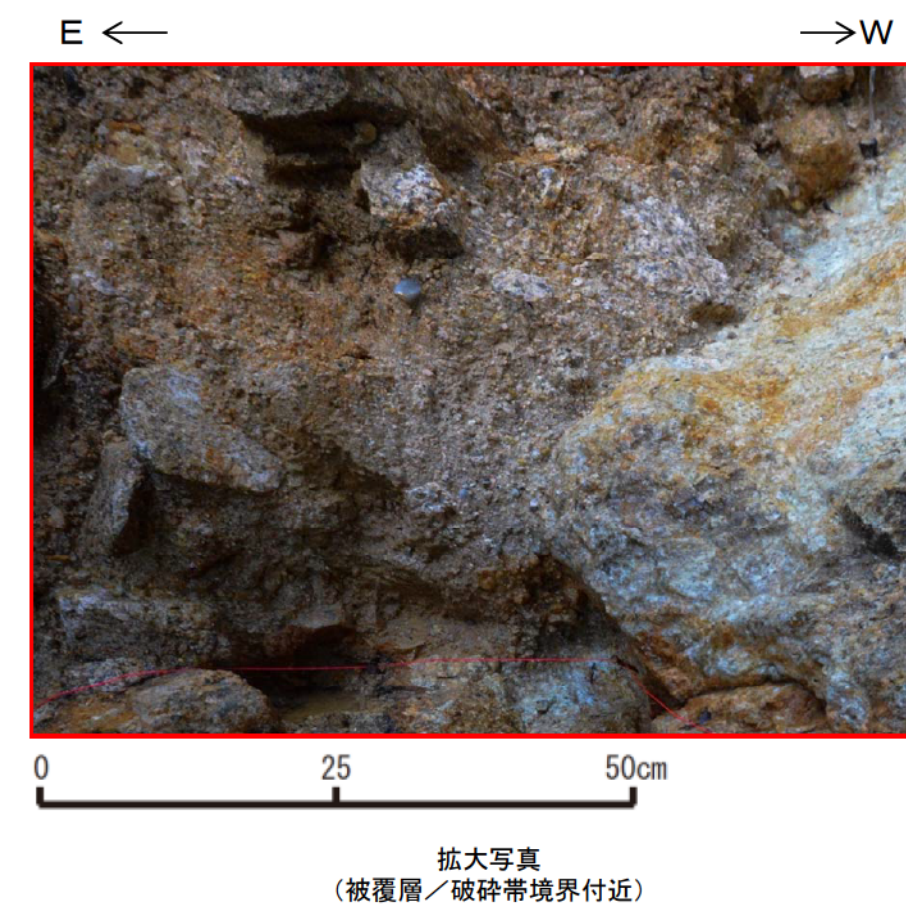
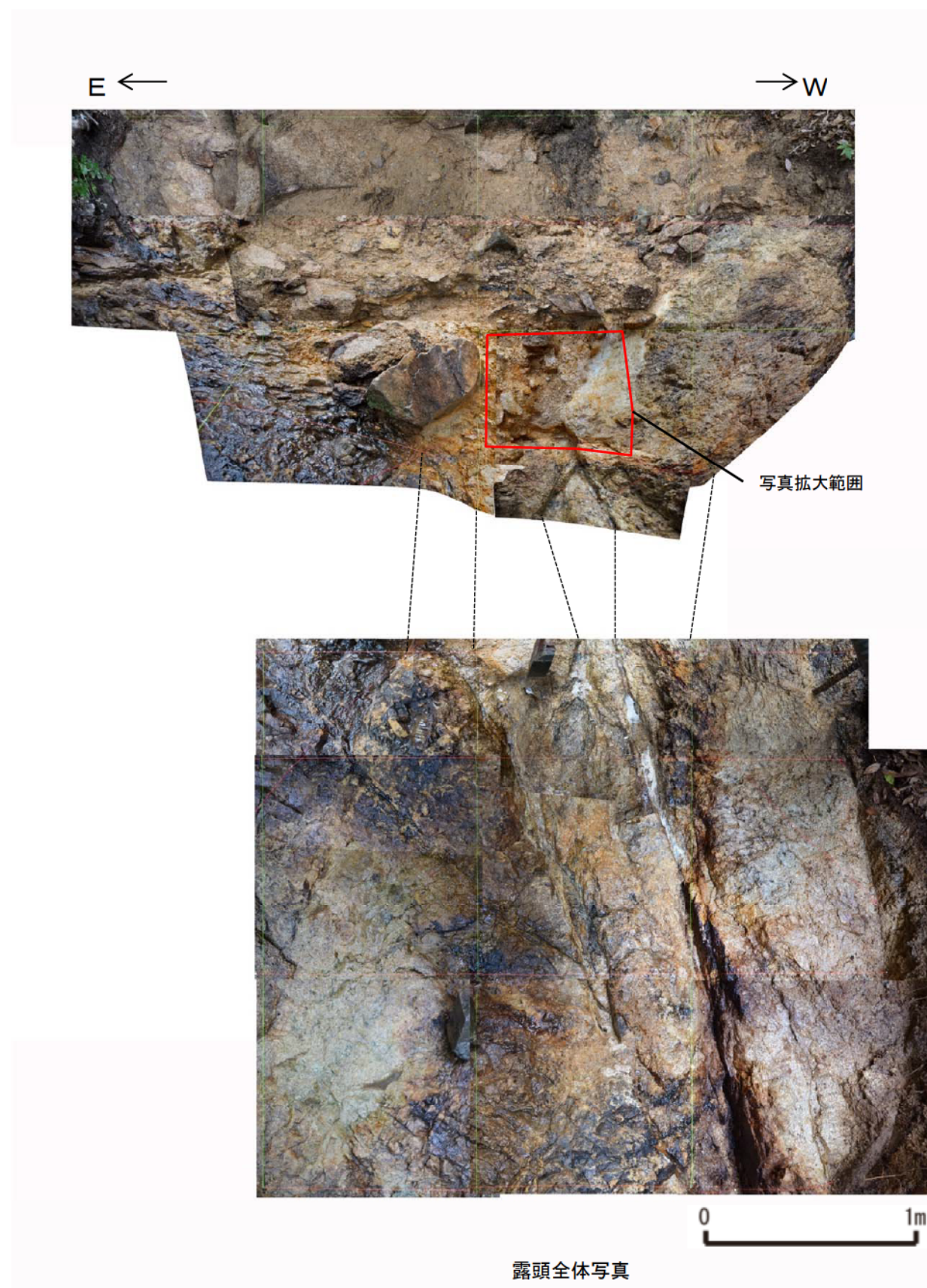
第1.4.11図 L-2リニアメント周辺の地質図



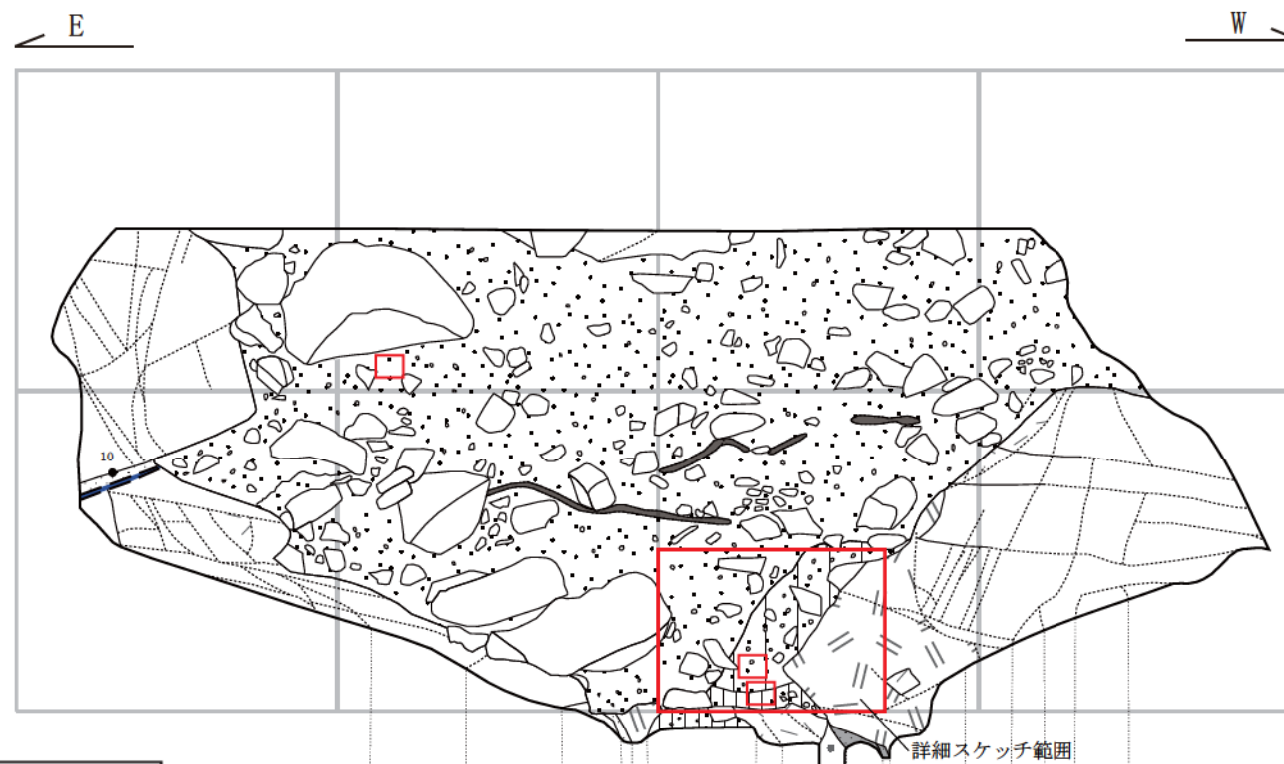
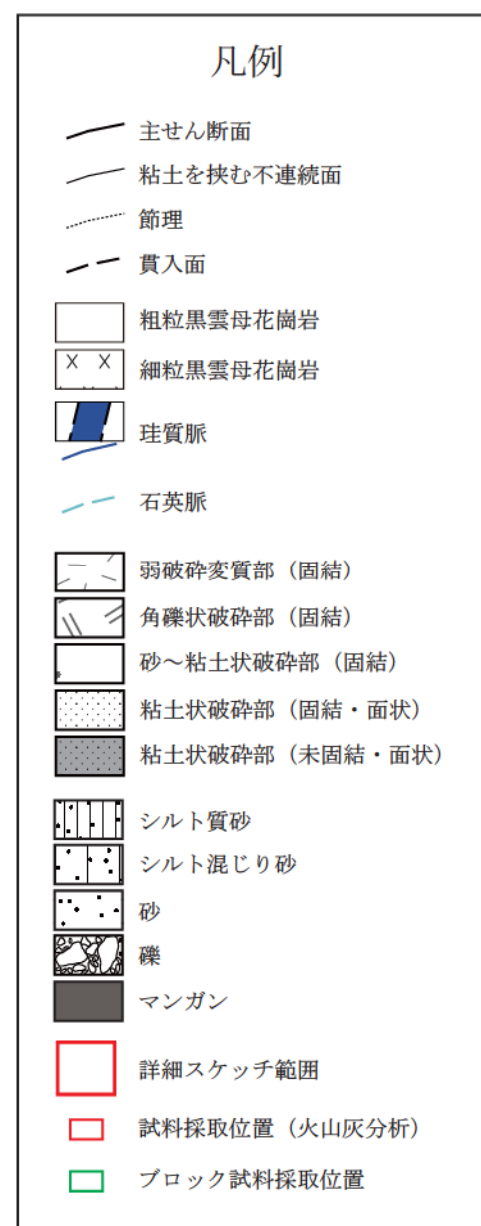
第1.4.12図(1) L-2リニアメント詳細ルートマップ (a地点～b地点) (北半分)



第1.4.12図(2) L-2リニアメント詳細ルートマップ (a地点～b地点) (南半分)



第 1. 4. 13 図(1) L-2 リニアメント a 地点北方露頭写真



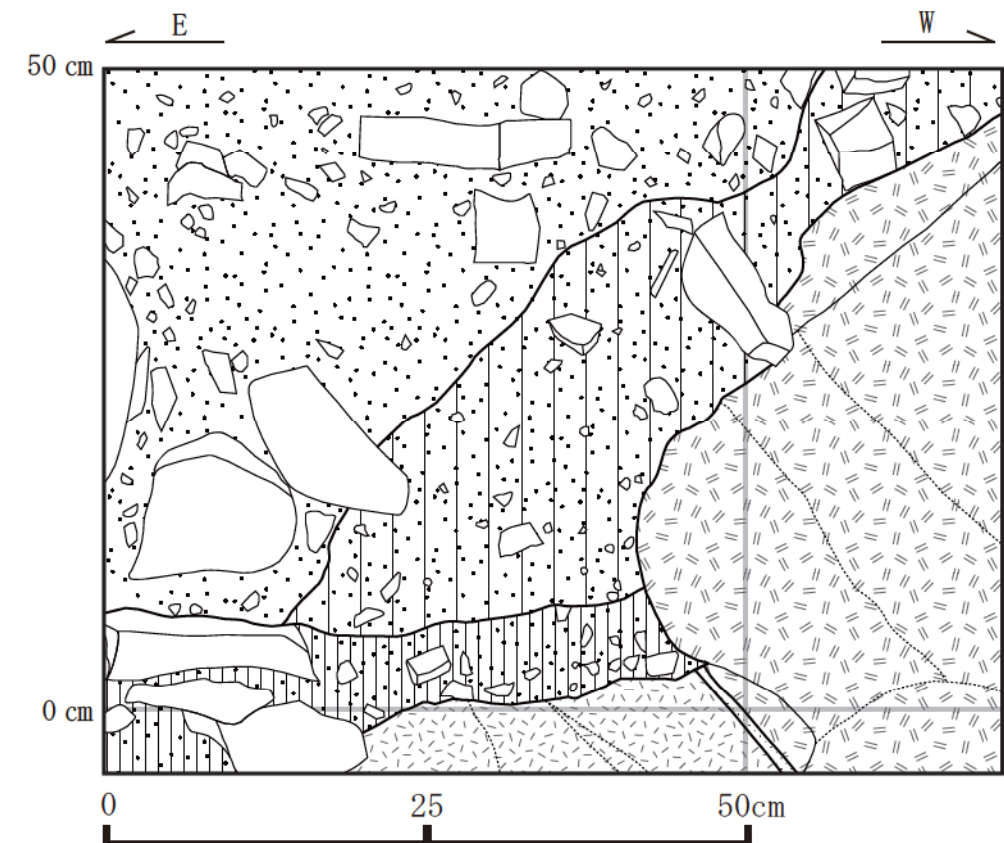
薄片作成位置

②

①

露頭スケッチ

- ・被覆層は始良 Tn テフラ起源の粒子を含むことから、約 3 万年前以降の堆積物と考えられる。
- ・被覆層に断層変位によって引きずられたような痕跡は認められない。



詳細スケッチ
(被覆層／破碎帯境界付近)

① N21°W・76°W・レイク 19°N

② N 9°W・74°W・レイク 10°N

(偏角未補正)